

れいわとねんそう。



目次

序論	1
アンシャンレジームの崩壊？	1
能登半島大震災に思う。	2
いじめについて	3
食べてすぐに・・・寝てはいけない・・・（貝原益軒先生「養生訓」より引用・・・）	4
自殺について	5
逃げるということ	6
疲れているときは、少ししか食べないほうが良い・・・？（貝原益軒「養生訓」より引用・・・）	7
いじめについて	8
謗られるということ	9
差別について	10
引きこもりについて	11
天・・・	13
徒然草・・・	14
海と月・・・	15
ひきこもれ・・・（吉本隆明先生の著書・・・）	16
引きこもりの想い出	17
最近、世の中が乱れている	19
土を耕すということ	20

買い物について．．．	22
真面目で．．．優しい人が．．．苦しんでいる．．．？	23
ナマズと雷魚．．．いじめの構造．．．？（さかなくんの記事にヒントを得て．．．）	24
引きこもりは、親子関係が原因なのか．．．？（親子は他人の始まり．．．）	25
毒親について．．．	27
敵愾心・対抗意識を持っている人たち．．．	28
多数派が．．．正義とは限らない．．．	30
水の浄化作用．．．	31
何故人を疑うのか．．．？	33
ニュートン．．．	34
芥川と、ショーペンハウエル．．．	35
選挙について．．．	36
宗教と科学、その他の学問．．．	37
梶川与惣兵衛さん．．．	38
人間疎外．．．	39
何故親に苛々するのだろうか．．．？	40
念の感応．．．祖母からもらった磁気ブレスレット．．．	41
UFO．．．	42
いじめ・ひきこもりと．．．親子関係．．．	44
いじめと．．．ひきこもり．．．	46
いじめと．．．自殺．．．	47
次郎物語．．．	48
希死念慮と．．．生に対する盲目的意思．．．	49

対人不安について．．．	51
多門伝八郎．．．（北嶋廣敏先生の「江戸川柳で読む忠臣蔵物語」より引用．．．）	53
腎を養う．．．（安岡正篤先生の著書より引用．．．）	54
自ら反みて縮ければ、千万人と雖も吾往かん．．．（孟子より引用．．．）	55
ソフィー・ジェルマン嬢．．．（令多映子「Sai On 風に向かって」を聴きながら．．．）	56
洗浴．．．（貝原益軒「養生訓」松田道雄訳より引用．．．）	58
枕草子と源氏物語．．．或いは．．．清少納言と紫式部．．．	59
本は読み込むべし．．．ゲームはやり込むべし．．．	61
徒然草と．．．方丈記．．．（小林秀雄の著書から引用．．．）	62
ゲームは．．．メンタルにいい．．．？	62
プレステ．．．	63
Amazon．．．	65
深層心理．．．	67
仕事について．．．	67
悪気がなく、知らない間に、人の気持ちを傷つけてしまうことについて．．．	68
眼はそれを探し求めているもの以外は見る事が出来ない。探し求めているものは、もと もと心のなかにあったものでしかない．．．（武田専先生の著書より引用．．．）	69
急ぎの書状だから．．．落ち着いてゆっくり書け．．．（小早川隆景の言葉．．．童門冬二 先生の著書より引用．．．）	71
よい本は自分で所有したくなるものだ．．．（福原麟太郎の著書より引用．．．）	72
子曰く、君子は義に喩り、小人は利に喩る．．．（論語・洪沢栄一先生の著書より引用．．．）	73
中原中也と小林秀雄．．．	74
人は存在するだけで価値がある．．．	76

眼横鼻直・・・（ナガオカ文庫・禅の言葉より引用・・・）・・・	77
他人のことは知ってはならぬ・・・（西村恵信訳・無門関より引用・・・）・・・	78
ニュートンとホーキング博士・・・（吉永良正先生の「神が愛した天才数学者たち」より引用・・・）・・・	79
他人には親切にできるのに・・・	80
家族の愛と、結婚の愛・・・（スウェーデンボルグの「霊界日記」より引用・・・）・・・	81
孟母の三遷・・・	81
少年老い易く 学成り難し・・・（朱熹の詩・林田愼之助先生「漢詩をたのしむ」より引用・・・）・・・	82
raindeer・・・	83
学問ほどの道楽はない・・・江戸時代の商人の言葉・・・（どなたかの著書からの引用・・・）・・・	84
小説と詩歌・・・（福原麟太郎随想全集第2巻より引用・・・）・・・	85
小人閑居して不善をなす・・・（「大学」より引用・・・）・・・	86
突撃ラーメン・・・？・・・	86
プリンターが故障した・・・	88
西行・・・	89
ネオパン400とトライX・・・	89
釣り堀の想い出・・・	91
実践すること・・・	92
大晦日に・・・（ピンクフロイドの「原子心母」を聴きながら・・・）・・・	93
子曰く、徳孤ならず、必ず隣あり。（論語・渉沢栄一先生の著書「孔子・人間、どこまで大きくになれるか」より引用・・・）・・・（ガーネット・クロウ「この手を伸ばせば」を聴きながら・・・）・・・	94
読書最も能く人を移す。畏るべきかな書や。（知至出版社・川口雅昭先生著「吉田松陰・修	

養訓」より引用・・・。	95
冬の寒さと夏の暑さ・・・（ガーネット・クロウ「この冬の白さに」を聴きながら・・・。	96
驥一日千里、駑馬十駕、則亦及之矣（荀子・竹村健一先生「荀子」人生で学ぶべきことより引用・・・。）	97
巳年について・・・（ガーネット・クロウの「closer」を聴きながら・・・。）	98
何を信ずるべきか・・・シュニッツラーの小説「盲目のジェロニモとその兄」（公方俊良先生「般若心経90の智慧」より引用・・・。）（福山雅治さんの「道標」を聴きながら・・・。）	99
格物致知・・・（「大学」より・・・。）	102
三学の教え・・・（斎藤孝先生著「最強の人生指南書・佐藤一斎「言志四録」を読む」・・・より引用・・・。）	102
子、怪・力・乱・神を語らず・・・（洪沢栄一先生著（「論語」人間、一生の心得）より引用・・・。）	103
恋愛について・・・	104
マーガリンと食パン・・・	105
B級グルメ・・・？	106
九仞の功を一簣に虧く・・・（きゅうじんのこうをいつきにかく・・・。）	107
百人一首・・・（ZARDの「止まっていた時計が今動き出した」を聴きながら・・・。）	108
香炉峰の雪・・・	111
辞書で調べるとのこと・・・	111
無計画の計画・・・（下村湖人著「次郎物語」より引用・・・。）	113
The last alchemist・・・	114
アフリカ・・・（高橋和夫Ⅱ訳編・スウェーデンボルグの「霊界日記」より引用・・・。）	115
寝所は別にしたほうが良い・・・？（安岡先生の著書・・・？より引用・・・。）	116

塙保己一さん・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	117
ガーネット・クロウと祖母・・・・・・・・・・	118
Time・is Life・・・・（谷口雅治先生の著書「生命の実相」より引用・・・・・・・・）・・・・	120
三年にして通、五年にして来、十年にして物・・・・？（安岡先生？の著書より引用・・・・）・・・・	122
祖母と五年日記・・・・・・・・・・・・・・・・	124
ドストエフスキーとトルストイ・・・・・・・・	126
国際条約集・・・・・・・・・・	128
祖母に対して、絶対に言わなかったこと・・・・	129
死に行った日・・・・自死について・・・・	132
早寝早起き・・・・？・・・・・・・・	134
当たり前のことではあるが・・・・・・・・	135
功過格と準提咒・・・・（安岡正篤先生著・立命の書「陰陽録」を読む・・・・より引用・・・・）・・・・	136
とかく最近は、思い遣りがない・・・・	137
積善の家に必ず余慶あり・・・・・・・・	138
鍛錬・・・・・・・・・・	140
知行合一・・・・・・・・	141
高島易・・・・・・・・	143
ノア・・・・・・・・	144
現世利益和讃・・・・・・・・	145
禹歩の方と無想転生・・・・・・・・	146
姿勢・・・・・・・・	147
自殺について思ったこと・・・・・・・・	148

立春を迎えたのに・・・	150
至誠にして動かされざるものは、未だこれあらざるなり・・・（孟子）・・・	152
身体髪膚、これを父母に受く。敢えて毀傷せざるは、孝の始めなり・・・（孝経）・・・	153
五台山の餅売老女・・・	155
高島易は・・・結構・・・当たる・・・	156
芥川龍之介・・・侏儒の言葉・・・	157
水晶玉・・・	158
お金では買えないものが・・・尊いのです・・・	160
天地鬼神を畏れ慎むべし・・・	160
香厳上樹・・・	161
日本の家は・・・	163
優しさ・・・	164
何も食べない男・・・	165
血を吐いた男・・・	167

序論

令和の時代になって、6年目に突入した。

心の雑記帳として、思いつくまま書いていきたいと思います。

アンシャンレジームの崩壊？

アンシャンレジームが崩壊し始めたのか？

いや、まだ崩壊が始まったばかりだけなのか？

しかしながら、

旧体制は崩れ去り、

新しい時代の到来の予感に満ちている。

だが、ここで重要となってくるのは、

新しい時代、新しい社会が

よりよきものである必要がある。

真の意味での民主主義、

真の意味での国民主権。

その実現が望まれる。

最大多数の最大幸福。

全員が幸福になれるような社会が望まれる。

能登半島大震災に思う。

お正月、元旦からの大震災で、石川県を始めとする、北陸の方々が多数犠牲になられた。

最初の報道では、津波の危険性が強く呼びかけられ、津波警報が出て、避難を呼びかけられていた。

これは正しいことと思われる。東日本大震災の教訓が生かされていたのだ。

それでも、津波の被害は予想を上回るものであったようだ。

また、地震そのもので、家屋の倒壊の多さには、驚愕するばかりである。ここまで被害が大きいとは、誰も予想できなかったであろう。

まだ、被害の全容が明らかになっていないことも、被災者の方々の不安を増大させている要因であろう。

天変地異が起きるたびに、社会不安が増大する。

そこで、人間不信に陥らずに、皆で力を合わせて助け合うことが必要になってくる。

人間不信に陥らないように、思いやりを持って、人のために尽くしたいものである。

犠牲になられた方々のご冥福をと、被災された方々の無事を祈る。

いじめについて・・・。

いじめ・・・。

いじめが社会問題になったのは、30年以上前の事である。中学校の男子生徒が、いじめを苦にして、自ら生命を絶った。私が高校生の頃である。私自身、中学時代にいじめられた経験があるので、他人事とは思えなかった。

私も、いじめられていた中学時代、死のうとしたことがあった。しかしながら、何とか思いとどまった。生命をたとうとした瞬間、家族の顔が目には浮かんだ。学校なんて、2, 3年辛抱すれば卒業だから・・・。

そう思って、何とか3年間耐えた。剣道部の友達が仲良くしてくれたのは、本当に有りがたかった。

私は長いこと考えてきた・・・。何故人をいじめるのであろうか・・・？

答えはまだ見つかっていない・・・。

私には理解不能であるのだ・・・。

いじめて、人を苦しめて、何が楽しいのであろうか・・・？

私にはわからない・・・。

今日でも、いじめで苦しんでいる方は大勢おられると思う。そういう場合は、誰かに相談することが大切になってくる。私の場合は、誰にも相談できなかったが、今思えば、誰かに相談するべきだったと思う。

とにかく、いじめで苦しんでいる方々には、絶対に死を選ばないで欲しい。どんなに苦しくとも、生きる道を選んで欲しい。そういうのは簡単なことであるが、実際にいじめにあっている人は、耐え難い苦しみ、悲惨な現実、絶望と向き合っておられるということは、私もよく知っている・・・。

それでも・・・、

生きることを選んでいただきたい・・・。

健闘を祈る・・・。

食べてすぐに・・・寝てはいけない・・・（貝原益軒先生「養生訓」より引用・・・）・・・。

ご飯を食べると・・・、

眠くなる・・・。

寝たくなる・・・。

しかしながら・・・、

貝原益軒先生の「養生訓」によれば・・・、

「食べてすぐに寝てはいけない・・・。」そうである・・・。

「・・・食べてすぐに寝ると、脾胃を痛める・・・。」ということだ・・・。

ご飯を食べたあと、どうしても眠くなったら・・・、

「・・・横になってもいいが、眠らないほうがいい・・・。」ということである・・・。

なかなか・・・、

難しいのう・・・。

その上・・・、

ご飯や・・・、

肉類は・・・、

「・・・少し食べるだけのほうがいい・・・。」と書いてある・・・。

「・・・多く食べると、脾胃を痛める・・・。」そうである・・・。

少食で・・・、

よく体を動かすことが・・・、

健康の秘訣のようである・・・。

なんか・・・、

ますます・・・、

難しいなあ・・・。

自殺について・・・。

年間、2万人以上の方々が、自ら生命を絶っておられる。とても他人事では済ますことは出来ない。私自身も、死のうとしたことは、一度や二度ではない。死んだほうが楽なのは・・・と思うことは、日常茶飯事である。

数人の友人、同級生が、自ら生命を絶った。何とも言えない気持ちである。

歴史的に見ても、自ら死を選んだ人は多い。ショールペンハウエル、マインレンデル、芥川龍之介、川端康成等、枚挙に暇がない。

天才や頭のいい人は、死を選ぶのであろうか・・・？

それは、私にはわからない・・・。

しかしながら、自殺ということは、決して他人事ではない、ということは肝に銘じておくべきであろう。

生命有るものは、いずれは死ぬ・・・。

memento mori である。

明日をもしれぬ身の我々人間は、一日一日を精一杯生きよう。

限り有る生命なのだから・・・。

逃げるということ・・・。

「三十六計逃げるに如かず。」というように、逃げることも必要である。

いじめや差別、犯罪からは逃げるべきである。

しかしながら、日常生活の中で、逃げてばかりいると、かえって苦しくなる、ということも事実である。

「当たって砕けろ」という言葉もあるように、困難と正面から取り組むことも大切なことである。

逃げるか・・・？

正面から取り組むか・・・？

どの道を選ぶかが、難しいところではある・・・。

疲れているときは、少ししか食べないほうが良い・・・？（貝原益軒「養生訓」より引用・・・。）

疲れている時には、つい食べ過ぎてしまう。それは私だけではあるまい。より多くの栄養を取ろうとする本能なのかもしれない。

しかしながら、貝原益軒先生の「養生訓」によれば・・・、

「・・・疲れている時には、少ししか食べないほうが良い・・・。」というようなことが書いてある・・・。

確かに、疲れている時にたくさん食べると、胃の調子が悪くなりがちである・・・。

やはり・・・、

疲れている時には・・・、

少ししか食べないほうが良いのであろう・・・。

それにしても・・・、

古典には・・・、

良いことが書いてあるなあ・・・。

いじめについて・・・。

「さっめ」・・・、

本当に嫌な言葉である・・・。

いじめる人は、いじめられる人の心が、どんなに苦しいか、考えたことがあるのであろうか・・・？

そう話すと・・・、

「・・・いじめられる人にも責任がある・・・。」

「・・・いじめがなかった時代など無い・・・。」

そんな言葉が帰ってきたこともあった・・・。

しかしながら・・・、

そんな問題であろうか・・・？

自分や、自分の家族がそんな目にあったら、どうするのであろうか・・・？

いじめは・・・、

他人事ではすませられない・・・。

「我が身をつねって、人の痛みを知る」

という言葉が・・・、

味わい深いものであるなあ・・・。

謗られるということ・・・。

ネット世界でも・・・、

現実世界でも・・・、

誹謗中傷が多い・・・。

法句経の中に・・・、

「謗られない人はいないし、謗られるだけの人もいない。」

とある・・・。

老荘思想では・・・、

「毀誉褒貶を気にするのは、愚か者。」

というような考え方もある・・・。

とにかく生きづらい世の中である・・・。

しかしながら・・・、

何とか・・・、

強く正しく・・・、

生きていきたいものである・・・。

差別について・・・。

差別・・・。

嫌な言葉である・・・。

何故・・・、

人は・・・、

差別をするのであろうか・・・？

多分・・・、

異質なものを排除しようとする心理が働いているのであろう・・・。

或いは・・・、

自分よりも弱い立場の者を迫害して・・・、

自分はまだマシである・・・、

と思いたいのであろう・・・。

差別の構造は・・・、

いじめの構造と似ている・・・。

というよりも・・・、

本質的には同じことなのであろう・・・。

いじめ・・・、

差別・・・、

本当に嫌なものである・・・。

いじめや差別がなくなるだけで・・・、

この世はどんなにか・・・、

平和になるであろうに・・・。

引きこもりについて・・・。

私は、20代半ばで2,3年引きこもった。仕事をやめて実家に帰ったら、引きこもりになった。なぜそうなったかは、未だに謎である。気づいたら引きこもりになっていた。

昼夜逆転生活・・・、

そして、人と会うのが恐ろしくなった・・・。

買い物にもいけなくなった・・・。

幸い、車と自動車免許を持っていたので、毎晩海までドライブに行った。そして、たばこや、缶コー
当時の私は、引きこもっているのは、世界中で自分一人だと思っていた・・・。

正確に言うと、90年代なかばの当時は、やっと、引きこもりという言葉が使われるようになったば
新聞で読んだ、斎藤環先生の記事が救いになった・・・。

everypar{null}「・・・最近、家に引きこもっている若者が増えている・・・。」というような内
everypar{null}「引きこもり」という言葉を最初に使われたのが、斎藤環先生だという説も有る・

兎に角私は救われた・・・。

斎藤環先生は、最高の精神科医の一人だと思う・・・。

私はそれから、工事現場の警備員のバイトに思い切って応募した。30歳近くになっていた。なんととにかくそれで、引きこもりから脱出した・・・。

引きこもりから脱出するには、思い切った行動が必要である。兎に角何でもいいからバイトをするの
10年以上引きこもりが続いた場合には、専門機関に相談するのが良いと思われる。

いずれにせよ、兎に角一步でも家から出ることが必要である。

せつかくの人生なのだから・・・、

引きこもりで、人生を無駄にしないほうがいい。

引きこもり期間中は、本を読んだり、何らかの勉強をしたり、音楽を聞くのがいい。

兎に角、限り有る人生なのだから、一日一日を有意義に、精一杯生きよう。

天・・・。

史記で有名な項羽は言った・・・、

「・・・天の我を滅ぼすに、我なんぞ渡ることを為さんや・・・。」

天が生かそうと思えば、どんなことがあっても生き延びるし、

天が滅ぼそうと思えば、どうあがいても滅びるということであろうか・・・？

東洋古典には・・・、

「・・・天地鬼神を畏れ慎むべし・・・。」

という言葉が、よく登場する・・・。

やはり・・・、

天は・・・、

いつも・・・、

どんなことでも・・・、

見ているのであろう・・・。

天網恢恢疎にして漏らさず、である・・・。

徒然草・・・。

小林秀雄は、徒然草を絶賛している・・・。

一方・・・、

芥川龍之介は・・・、

「・・・中学生の古典の教科書に調度良い・・・。」

というようなことを、「侏儒の言葉」の中で述べている・・・。

同じものに対する評価も・・・、

こんなに違ってくるのだなあ・・・。

人の評価なんぞ・・・、

当てにならないものである・・・。

老荘思想の・・・、

「・・・毀誉褒貶を気にするのは愚か者・・・。」

という考え方が・・・、

何とも味わい深いなあ・・・。

海と月・・・。

昔、友人が・・・、

「・・・海を見ると怖くなる人がある・・・。」

と言っていた・・・。

また・・・、

「・・・月を見ると怖くなる人がある・・・。」

と聞いたことも有る・・・。

私は不思議に思った・・・。

海を見るとホッとするし・・・、

お月様を見ると安心するからである・・・。

私だけが特殊なのであろうか・・・？

いや・・・、

そんなことがあろうはずがない・・・。

人の感性とは様々なものであるのだなあ・・・。

ひきこもれ・・・（吉本隆明先生の著書・・・。）・・・。

吉本隆明先生は、「ひきこもれ」の中で・・・、

「・・・自分はひきこもり気質だったので、物書きになった・・・。」

ということを書いておられる・・・。

また・・・、

「・・・人間には、断片化されない時間が必要であり、そのためには、ひきこもることも必要である・・・。」

ということも書いておられる・・・。

なるほど・・・、

引きこもることにも意味があったのだ・・・。

そして・・・、

「・・・ひきこもりの人にも、恋愛は重要である・・・。」

と述べておられる・・・。

愛する人ができれば、その人と一緒に暮らすために、何とか働いて、お金を稼がなければならないからだそうだ・・・。

納得の理由である・・・。

引きこもりには、負のイメージがつきまとうが・・・、

決して、マイナス面ばかりではなく・・・、

プラスの面もあるのであろう・・・。

引きこもりの想い出・・・。

引きこもりは辛い・・・。

周囲から理解が得られない・・・。

家族すら理解してくれない・・・。

そして私は考えていた・・・、

「・・・何だろう・・・、何でこうなったんだろう・・・？」

という・・・、

答えのない・・・、

禅問答のようなことを・・・。

親を恨み・・・、

自分をいじめた人を恨んでいた・・・。

「・・・あいつらのせいでこうなったんだ・・・、絶対に許さない・・・。」

そんなことを・・・、

毎日考えていた・・・。

しかしながら・・・、

どんな問題であれ、他人のせいになっているようでは解決しない・・・。

なぜなら・・・、

他人のせいでこうなった・・・、

ということは・・・、

自分には何の力もない・・・、

自分では何も変えられない・・・、

と、認めることになるからである・・・。

自分の責任でこうなったのだと考えれば・・・、

案外、突破口が見つかるものである・・・。

少なくとも・・・、

他人を恨むのをやめよう・・・。

他人を許そう・・・。

そうすれば・・・、

少しは楽になる・・・。

そして・・・、

何かにチャレンジする勇氣も湧いてくる・・・。

その気持ちが・・・、

引きこもりから脱出するチャンスと呼びこむことになる・・・。

少なくとも・・・、

私の場合はそうであった・・・。

口で言うほど簡単なことではないが・・・、

「当たって砕けろ」

である・・・。

最近、世の中が乱れている・・・。

最近・・・、

世の中が乱れている・・・。

みんな、イライラして・・・、

疑い深くなっている・・・。

事件・事故・災害など様々なことが起きている・・・。

人の心が乱れば・・・、

世の中は乱れる・・・。

一人一人が・・・、

乱れた心を・・・、

整えるべきであろう・・・。

そういう私の心が・・・、

一番乱れている・・・。

三界は唯心の所現である・・・。

ここを・・・、

整えよう・・・。

土を耕すということ・・・。

久しぶりに、畑を耕した・・・。

少し疲れたが、汗をかいてすっきりした・・・。

養老先生によれば・・・、

「・・・昔の人は、畑仕事で毎日土を耕していたから強かったのである・・・。」

というようなことを書いておられる・・・。

確かにそうかもしれない・・・。

毎日、畑仕事をしていれば・・・、

心も体も鍛えられるであろう・・・。

祖母がそうであった・・・。

戦争未亡人であったので・・・、

畑仕事と、工事現場の水汲みで・・・、

一人で家を守っていた・・・。

祖母は・・・、

働き者で・・・、

異様なまでに強かった・・・。

その分厳しくて、子供の頃は・・・、

毎日のように・・・、

ビンタされたものである・・・。

兎にも角にも・・・、

現代人は・・・、

土を耕すことを忘れている・・・。

もっと・・・、

土を耕そう・・・。

そうすれば・・・、

心も体も強くなれるはずである・・・。

少なくとも・・・、

ストレスや悩みなど・・・、

吹っ飛んでしまう・・・。

なんとなく・・・、

そう思った・・・。

買い物について・・・。

私は買い物が好きである・・・。

どうでもいいものでも、買うと何だかホッとする・・・。

別に、お金持ちではないが・・・。

買い物依存症なのだろうか・・・？

五木寛之先生は著書の中で・・・、

「・・・私には浪費癖がある、しかしそれで精神のバランスが取れているのだと思う・・・。」

というようなことを述べておられる・・・。

私にも浪費癖がある・・・、

しかしそれで、メンタルバランスをとろうとしているのかもしれない・・・。

浪費が浪費であって、浪費ではない・・・。

無駄が無駄であって、無駄ではない・・・。

ということなのであろうか・・・？

人間の行動には・・・、

何らかの意味があるのであろう・・・。

真面目で・・・優しい人が・・・苦しんでいる・・・？

どうも、現代日本では、真面目で優しい人が苦しんでいるように思える・・・。

いじめられるのも・・・、

差別されるのも・・・、

自ら生命を絶つのも・・・、

皆・・・、

真面目で優しい人なのではあるまいか・・・？

本当に、不条理な世の中である・・・。

真面目で優しい人が・・・、

何故・・・、

苦しまなければならないのであろうか・・・？

私には・・・、

わからない・・・。

ナマズと雷魚・・・いじめの構造・・・？（さかなくんの記事にヒントを得て・・・。）

さかなくんの記事に、魚の世界でも、いじめが有ということが書いてあった・・・。

それを読んで、私は思い出した・・・。

昔・・・、

水族館に行った時のことを・・・。

同じ水槽に、二匹のナマズと、一匹の雷魚が入れられていた・・・。

よくみると、雷魚には傷があった・・・。

私は不思議に思った・・・。

すると・・・、

二匹のママズが、一匹の雷魚を攻撃していたのだ・・・。

私は驚いた・・・。

こんなことがあるのか・・・？

そう思った・・・。

これこそ・・・、

いじめの構造ではないだろうか・・・？

さかな君の記事で思い出した・・・。

多数派が、少数派を攻撃する・・・。

異質な存在や・・・、

マイノリティーが迫害される・・・。

これこそまさに・・・、

いじめや、差別の・・・、

本質なのではあるまいか・・・？

さかな君の記事を読んで・・・、

そんなことを思った・・・。

引きこもりは、親子関係が原因なのか・・・？（親子は他人の始まり・・・。）・・・。

どうも、引きこもりは、親子関係が原因のように思われる・・・。

他にも原因があるのであろうが、根本的な原因は、親子関係であろうと思う・・・。

「家族という病」という本を書かれている先生もおられる・・・。

現代日本の、親子関係・家族関係は限界まで来ている・・・、

というか・・・、

崩壊している・・・。

少なくとも、異常な関係になっている・・・。

過干渉・・・、

暴力・・・、

言葉による暴力・・・、

あげばきりがない・・・。

引きこもりや、ニートになるのは・・・、

親に対する復讐である、と述べておられる先生もいる・・・。

いじめに関しても・・・、

同じようなことが言えるのではなからうか・・・？

いじめられる人と、引きこもりになる人の、家族関係・親子関係は似ているのではなからうか・・・？

私は素人なので・・・、

よくわからないが・・・、

親子関係・家族関係に原因があるとするば・・・、

思い切って・・・、

親子家族の縁を切る・・・、

という、荒療治も必要となってくるのであろうか・・・？

無責任なことと言えないが・・・、

私は・・・、

そのうち・・・、

親子の縁を切ろうと考えている・・・。

そんなのは、私だけであらうか・・・？

いや・・・、

そんなことはあるまい・・・。

毒親について・・・。

毒親・・・。

割と最近になって聞く言葉である・・・。

実際、毒親は存在するものである・・・。

私の親がそうだ・・・。

ことに、母親は、精神異常者である・・・。

人を支配しようとする・・・、

何にでも干渉する・・・、

思い通りにならないと、ヒステリーを起こす・・・。

人の悪口、陰口を言っただけ・・・。

いまや、誰からも相手にされていないのに・・・、

自分では気づいていない・・・。

まさしく・・・、

精神異常者である・・・。

子供の頃から苦しめられてきた・・・。

そろそろ・・・、

縁を切るべき時である・・・。

毒親とは縁を切って・・・、

その支配から抜けだして・・・、

自分の人生を取り戻して・・・、

幸せになりたいものである・・・。

敵愾心・対抗意識を持っている人たち・・・。

敵愾心・・・、

対抗意識を持っている人が・・・、

身近にいと、面倒くさい・・・。

すぐ、敵愾心をむき出しにし・・・、

対抗意識を燃やす人たち・・・。

一体、どういう精神構造なのだろうか・・・？

親が・・・、

そんなやつだと・・・、

本当に・・・、

毎日が・・・、

面倒くさい・・・。

何故・・・、

敵愾心や・・・、

対抗意識を・・・、

むき出しにするのであろうか・・・？

私には・・・、

未だに・・・、

謎である・・・。

多数派が・・・正義とは限らない・・・。

多数派が正義だとは限らない・・・。

言い方を変えれば・・・、

多数派が正しいとは限らない・・・。

少数派、いわゆるマイノリティーの方が正しい場合もある・・・。

というよりも・・・、

マイノリティーの方が正しい場合が多いのではあるまいか・・・？

多数派、マジョリティーが正しいのであれば・・・、

そうでない場合・・・、

少数派、マイノリティーは迫害される・・・。

いじめや差別・・・、

これである・・・。

特に日本社会では・・・、

民主主義の名のもとに・・・、

或いは・・・、

多数決の原理の名のもとに・・・、

少数派、マイノリティーは苦しむ・・・。

それを救済するのが司法権・・・、

すなわち、裁判所の役割である・・・。

裁判所の優秀で勇気ある方々の矜持に期待したいものである・・・。

裁判所は・・・、

我々日本国民を守る、最後の砦なのであるのだから・・・。

水の浄化作用・・・。

水には・・・、

浄化作用があるらしい・・・。

雨・・・、

川・・・、

海・・・、

お風呂・・・等・・・。

私は雨が好きで・・・、

雨が降ると、何だかホッとする・・・。

辛いことがあると・・・、

海を見に行く・・・。

お風呂に入ると、スッキリする・・・。

これは、水の浄化作用なのであろうか・・・？

また・・・、

涙にも・・・、

浄化作用があるらしい・・・。

涙活という言葉も・・・、

一時期、流行した・・・。

確かに・・・、

泣くと、スッキリする・・・。

観念洗浄とか・・・、

観念泄瀉とかいうらしい・・・。

とにかく・・・、

どこかで・・・、

感情を吐き出せばいいのであろう・・・。

何にせよ・・・、

溜め込み過ぎるのはよくない・・・。

こころの健康のために・・・、

感情を・・・、

少しずつ・・・、

吐き出そう・・・。

そして・・・、

身も心も・・・、

清めよう・・・。

何故人を疑うのか・・・？

現代日本では、人を疑い過ぎると思う。事件が多いのでやむを得ないことかもしれない・・・。

しかしながら・・・、

人を疑い始めると・・・、

人を信じられなくなる・・・。

人を信じられなくなると・・・、

生きることが苦しくなる・・・。

また・・・、

人から疑われることも苦しい・・・。

谷口雅治先生によれば・・・、

「・・・善人でも、疑えば悪人になる・・・。」

というようなことを書いておられる・・・。

もう少しおおらかになって・・・、

人間同士・・・、

信じ合いたいものであるなあ・・・。

ニュートン・・・。

あのニュートンは・・・、

ほとんど食べなかったらしい・・・。

また・・・、

ほとんど眠らなかったらしい・・・。

そして・・・、

素手ボクシングの達人だったらしい・・・。

天才とは・・・、

凄いものであるなあ・・・。

芥川と、ショーペンハウエル・・・。

芥川は・・・、

作品の中で・・・、

「・・・私の実母は狂人だった・・・。」

と書いている・・・。

また・・・、

ショーペンハウエルは・・・、

実母に追い出されたい・・・。

その理由は・・・、

「・・・天才は家に一人だけでいい・・・。」

という理由だったそうである・・・。

天才は・・・、

大変な苦勞をされているのであるなあ・・・。

選挙について・・・。

選挙は・・・、

本音を言えば・・・、

面倒くさい・・・。

投票しても、何も変わらない・・・、

そう思いがちである・・・。

しかしながら・・・、

投票しなければ・・・、

何も変わらない・・・。

選挙権は・・・、

民主主義の土台である・・・。

選挙権を獲得するために・・・、

多くの先達が苦労された・・・。

選挙権があるということは・・・、

本当に有り難いことなのである・・・。

選挙に行かずに・・・、

国が悪い・・・、

社会が悪い・・・、

等というのは、愚の骨頂である・・・。

選挙には行くべきである・・・。

私はそう思う・・・。

宗教と科学、その他の学問・・・。

宗教と科学、その他の学問は、結局、同じ所を目指しているのではなからうか・・・？

宗教も・・・、

科学も・・・、

哲学も・・・、

数学も・・・、

文学も・・・、

その他のありとあらゆる学問も・・・。

例えるならば・・・、

富士山やエベレストに登るのに、いくつものルートがあるように・・・。

宗教や科学、その他のありとあらゆる学問は・・・、

真理という巨大な山の山頂に到達するための、いくつものルートなのではあるまいか・・・？

梶川与惣兵衛さん・・・。

松の廊下で・・・、

吉良上野介に斬りかかる、浅野内匠頭様を止めた、梶川与惣兵衛さん・・・。

江戸の町民からは・・・、

「武士の情けを知らぬ腰抜けざむらい」と・・・、

軽蔑されたそうである・・・。

しかしながら・・・、

私はそうは思わない・・・。

朝廷からの勅使が来られている日・・・、

江戸城内で、勅使饗応役が、もう一人の饗応役に斬りかかるのを・・・、

身を挺して制したのである・・・。

武士の鑑ではないか・・・。

民衆というものは・・・、

何時の時代でも・・・、

無責任なものである・・・。

私は・・・、

子供の頃から・・・、

今日に至るまで・・・、

梶川与惣兵衛さんのことが・・・、

大好きである・・・。

梶川殿・・・、

安らかに・・・。

人間疎外・・・。

人間疎外という言葉がある・・・。

私は専門家ではないので、本来の意味はわからない・・・。

しかしながら・・・、

現代社会では、疎外感を感じている人が少なくないのではあるまいか・・・？

学校・・・、

職場・・・、

地域・・・、

家庭においてまで・・・。

私も、しばしば疎外感を感じる・・・。

文明が発達するのはいいことではあるが・・・、

人間そのものが・・・、

取り残されているような気もする・・・。

もう一度・・・、

本来の人間のあり方を考えてみるべきではなからうか・・・？

何故親に苛々するのでしょうか・・・？

私は、すぐ親に苛々する・・・。

他人には気を遣うのに、親には苛々する・・・。

所謂、内弁慶である・・・。

本当に情けない・・・。

家に変えるまでは・・・、

親に感謝していても・・・、

家に帰ると・・・、

途端に・・・、

親に苛々する・・・。

何故なのであろうか・・・？

いくら考えてもわからない・・・。

いきなり親に感謝できないまでも・・・、

とりあえず・・・、

親を許そう・・・。

何となく・・・、

そう思った・・・。

念の感応・・・祖母からもらった磁気ブレスレット・・・。

念の感応・・・、

そういうと、宗教くさく感じられるが・・・、

私はあると思う・・・。

祖母がなくなる前の晩に・・・、

祖母からもらった、磁気ブレスレットが・・・、

パーンと弾けてしまった・・・。

ああ・・・、

ばあちゃんは、もうダメなんだなあ・・・。

そう思った・・・。

次の日の早朝・・・、

入院中の祖母に付き添っていた母から電話があった・・・、

祖母はもうダメらしいということだった・・・。

そういう実体験から・・・、

念の感応や、虫の知らせというものは・・・、

本当にあると思う・・・。

できうるならば・・・、

いいことの予兆だといいいのだがなあ・・・。

UFO・・・。

UFO・・・。

その存在を信じる人と・・・、

信じない人にと・・・、

真っ二つに分かれることであろう・・・。

私は後者だった・・・、

あの日までは・・・。

おじのお通夜の晩・・・、

別のおじとさんと・・・、

お通夜に出席した・・・。

お通夜のあと・・・、

おじさんを送り届けて・・・、

私は、夜のバイパスを車で走っていた・・・。

すると・・・、

夜空に・・・、

何かが浮かんできた・・・。

小さな光が・・・、

ポツポツと・・・、

輪を描いていた・・・。

なにか巨大な物体であった・・・。

未だに何かはわからない・・・。

昼間に、同じバイパスを通ったこともあるが・・・、

頭上には・・・、

UFOと見間違えうようなものは何もなかった・・・。

その日から・・・、

私は・・・、

UFOの存在を信じるようになった・・・。

あれは・・・、

幻であったのであろうか・・・？

未だによくわからない・・・。

いじめ・ひきこもりと・・・親子関係・・・。

いじめられたり・・・、

いじめたりする人は・・・、

家族関係、特に親子関係に問題があるように思える・・・。

ひきこもりになる人も・・・、

同じような問題を抱えていると思う・・・。

私の場合がそうであった・・・。

親子関係が異常なので・・・、

人付き合いが上手く出来ない・・・。

だから・・・、

いじめられる・・・、

ひきこもりになる・・・。

家庭に居場所がない・・・、

あるいは・・・、

安全地帯がない・・・。

そんな人が・・・、

どういう訳か・・・、

ひきこもりになったりする・・・。

自宅は、決して居心地がいいわけではないのに・・・。

いじめられたり・・・、

いじめたりするひとも・・・、

同じだと思う・・・。

親は選べないからなあ・・・。

いじめと・・・ひきこもり・・・。

いじめ・・・。

ひきこもり・・・。

この二つは・・・、

密接な相関関係があると思う・・・。

ひきこもり経験者の多くが・・・、

いじめられた経験があるはずである・・・。

いじめだけが、ひきこもりの原因ではないが・・・、

若い人のひきこもりは・・・、

いじめが、主たる原因であると思う・・・。

その、いじめの原因が・・・、

家族関係・・・、

特に、親子関係にあるはずである・・・。

親がまともであれば・・・、

多少の問題は解決できる・・・。

しかしながら・・・、

話にならない親だと・・・、

どうしようもない・・・。

いじめと・・・自殺・・・。

いじめ・・・、

自殺・・・、

この二つは・・・、

密接な相関関係があると思う・・・。

特に、子供さんや、学生さん、そして若者の場合には・・・。

しかしながら・・・、

いじめが原因ではない・・・、

いじめだけが原因ではない・・・、

他に原因があった・・・。

ということにされる場合が多い・・・。

これでは・・・、

いじめられて・・・、

苦しくて苦しくて・・・、

自ら生命を絶った人たちの魂が・・・、

浮かばれない・・・。

何とか・・・、

いじめ・・・、

差別・・・、

自殺をゼロに出来ないものであろうか・・・？

明日は我が身である・・・。

少なくとも他人事ではない・・・。

次郎物語・・・。

次郎物語・・・。

子供の頃・・・、

ばあちゃんが買ってくれた・・・。

理由はわからない・・・。

しかも・・・、

子供には難しかった・・・。

また・・・、

次郎物語を・・・、

読んでみようと思う・・・。

希死念慮と・・・生に対する盲目的意思・・・。

宗教家によれば・・・、

人は、肉体を嫌悪しているらしい・・・。

それ故に・・・、

厳しい修行、荒行をするとのことである・・・。

一方・・・、

シヨウペンハウエルによれば・・・、

人には・・・、

生に対する盲目的意思があるとのことである・・・。

一見、矛盾するようではある・・・。

しかしながら・・・、

人間とは・・・、

矛盾に満ちた存在ではあるまいか・・・？

私に関して言えば・・・、

10代の頃から・・・、

希死念慮がある・・・。

一方で・・・、

死ぬのが怖い・・・。

何としても生きていたいと思う・・・。

人間とは・・・、

本当に・・・、

矛盾した存在である・・・。

少なくとも・・・、

矛盾したことを考える・・・。

私だけであろうか・・・？

いやいや・・・、

そんなことはあるまい・・・。

対人不安について・・・。

私には・・・、

子供の頃から・・・、

対人不安がある・・・。

いじめられた経験からか・・・、

ひきこもりになった経験のためか・・・、

よくわからない・・・。

もしかすると・・・、

対人不安があるから・・・、

いじめられたり・・・、

ひきこもりになったりするのかもしれない・・・。

鶏が先か、卵が先かという話に似ている・・・。

生きていくうえで・・・、

対人不安があると・・・、

かなり生きづらさを感じることになる・・・。

しかしながら・・・、

現代社会で、対人不安のない人は少ないのではあるまいか・・・？

対人不安を克服するのは難しい・・・。

谷口雅治先生によれば・・・、

「・・・秘密性の強い人は、対人不安になる・・・。」

とのことである・・・。

仏教学者の先生によれば・・・、

「・・・自分を愚か者だと思えば、対人不安は消える・・・。」

とのことである・・・。

ということは・・・、

自分の秘密を、全てオープンにして・・・、

自分は愚か者だと思えば・・・、

対人不安は消えることになる・・・。

しかしながら・・・、

それが難しいのである・・・。

それにしても・・・、

生きることは・・・、

人と関わることは・・・、

本当に難しいものであるなあ・・・。

多門伝八郎・・・。（北嶋廣敏先生の「江戸川柳で読む忠臣蔵物語」より引用・・・。）

多門伝八郎・・・。

浅野内匠頭様を取り調べた・・・、

目付である・・・。

浅野内匠頭様の・・・、

即日切腹に・・・、

抗議したそうである・・・。

また・・・、

田村右京大夫邸での・・・、

切腹が、庭先で行われることに関して・・・、

大目付の、庄田下総守と取っ組み合いの喧嘩になりかけたそうである・・・。

多門伝八郎・・・、

武士の鑑であるなあ・・・。

腎を養う・・・（安岡正篤先生の著書より引用・・・）・・・。

安岡先生の著書によれば・・・、

午後5時から7時までの間は・・・、

飲み食いはしないほうがいいそうである・・・。

それは・・・、

東洋医学的には・・・、

午後5時から7時までの間は、腎臓を休める時間だからとのことである・・・。

安岡先生はいかに偉大な学者とはいえ・・・、

医者ではないので・・・、

現代医学的見地からは、どうなのかはわからない・・・。

お医者さんはどう考えておられるかもわからない・・・。

しかしながら・・・、

私は・・・、

午後5時から7時までの間は・・・、

飲み食いを控えるようにしている・・・。

東洋の学問は・・・、

奥が深いものであるなあ・・・。

自ら反みて縮ければ、千万人と雖も吾往かん・・・（孟子より引用・・・。）

孟子に・・・、

「自ら反みて縮ければ、千万人と雖も吾往かん。」

とある・・・。

これは・・・、

ただの蛮勇ではない・・・。

自分を省みて・・・、

正しいならば・・・、

大勢を相手にしてでも・・・、

堂々としていられる・・・、

ということである・・・。

逆に・・・、

自分を省みて・・・、

正しいと思うことが出来なければ・・・、

相手が一人でも・・・、

ビクビクしてしまうということである・・・。

ということは・・・、

常に自分自身が正しくあれば・・・、

何も恐れることなく・・・、

堂々としていられるということであろう・・・。

やはり・・・、

積善改過に励もう・・・。

ソフィー・ジェルマン嬢・・・（令多映子「Sail On 風に向かって」を聴きながら・・・。）・・・。

昔・・・、

フランスに・・・、

ソフィー・ジェルマンという、女性数学者がいた・・・。

というか・・・、

いたらしい・・・。

私は数学者ではないので・・・。

ソフィーは少女時代に、数学の面白さに目覚めたらしい・・・。

しかしながら・・・、

フランスといえども・・・、

昔は・・・、

女性に数学など不要と思われていたらしい・・・。

それで、ソフィーの父親は、数学を学ぶことを禁じたらしい・・・。

それでもソフィーは諦めずに・・・、

こっそりと、数学を学び続けた・・・。

そして、あの数学王ガウスとも交流するにいたり・・・、

また・・・、

フェルマーの最終定理の研究にも、偉大な足跡を残したとのことである・・・。

しかし・・・、

ガウスが、フェルマーの最終定理とは違った分野の研究に打ち込み始めたため・・・、

ソフィーは・・・、

な・・・、

なんと・・・、

数学をやめてしまったらしい・・・。

しかしながら・・・、

ソフィーはそれで終わらなかった・・・。

な・・・、

なんと・・・、

物理学者に転向したらしい・・・。

そして・・・、

物理学の分野においても、偉大な足跡を残したそうである・・・。

何とも素晴らしい人であるなあ・・・。

我々も・・・、

ソフィー嬢を見習って・・・、

学問に打ち込みたいものであるなあ・・・。

洗浴・・・（貝原益軒「養生訓」松田道雄訳・より引用・・・。）・・・。

日本人は・・・、

お風呂が大好きである・・・。

しかしながら・・・、

貝原益軒の「養生訓」によれば・・・、

お風呂には何度も入らないほうがいい・・・、

とのことである・・・。

また・・・、

熱いお湯は害があるとも書いてある・・・。

そして・・・、

「夏でないのに、しばしば湯に入ってはならぬ。気持ちが良いけれども気がへる。」

とある・・・。

寒くなってくると・・・、

お風呂が恋しくなるのになあ・・・。

まあ・・・、

現代医学の見地からは・・・、

何の問題もないのかもしれないが・・・。

それにしても・・・、

東洋古典には・・・、

面白いことが書いてあるなあ・・・。

枕草子と源氏物語・・・或いは・・・清少納言と紫式部・・・。

学校で古文を習ったが・・・、

源氏物語は・・・、

どうしても好きになれなかった・・・。

80年代当時・・・、

女子生徒の間では・・・、

「あさきゆめみし」という源氏物語のコミックス版が人気であった・・・。

確か妹も読んでいたような気がする・・・。

しかしながら・・・、

私には・・・、

何故そんなものが面白いのか、さっぱり分からなかった・・・。

一方・・・、

枕草子は好きであった・・・。

源氏物語とは違って、読みやすかった・・・。

小説と随筆の違いのためであろうか・・・？

紫式部と清少納言の違いのためであろうか・・・？

もう一度・・・、

枕草子を・・・、

読んでみようかなあ・・・。

今度は・・・、

しつかりと・・・、

読み込んでみようかなあ・・・。

本は読み込むべし・・・ゲームはやり込むべし・・・。

読書百遍自ずから意通ず・・・。

読書百遍自ずから靈驗顯わる・・・。

読書破万卷。下筆如有神・・・。

兎に角・・・、

本は読み込んだほうがいい・・・。

また・・・、

ゲームは・・・、

やり込んだ方がいい・・・。

まあ・・・、

どうでもいいことではあるが・・・。

徒然草と・・・方丈記・・・（小林秀雄の著書から引用・・・）・・・。

徒然草と・・・、

方丈記・・・。

何となく似ている気がする・・・。

しかしながら・・・、

小林秀雄は・・・、

「・・・徒然草と方丈記は一番似てない・・・。」

と述べている・・・。

そうなのか・・・。

やはり・・・、

知の巨人は・・・、

凄いものであるなあ・・・。

ゲームは・・・メンタルにいい・・・？

ネットで見かけたのであるが・・・、

ゲームはメンタルに良いらしい・・・。

何かと批判されるゲームであるが・・・、

メリットもあるのか・・・。

確かに・・・、

ゲームもやりたくない時は・・・、

相当メンタルダウンしている時であろう・・・。

たまには・・・、

ゲームするのも・・・、

良いことなのだなあ・・・。

プレステ・・・。

何十年も・・・、

ゲームをやっている・・・。

いい歳をしてゲームやってるのは・・・、

少し恥ずかしい気もする・・・。

しかしながら・・・、

幼い頃、インベーダーゲームを体験して・・・、

ムーンクレスタ・・・、

ギャラクシアン・・・。

そして・・・、

ゲームウォッチ・・・。

ファミコン・・・。

スーファミ・・・。

プレステ・・・。

Xbox・・・。

等と、体験していれば・・・、

ゲームの奥深さが良くわかる・・・。

ゲームコンソールは優れたコンピュータであり・・・、

ゲームソフトは、優れたプログラムである・・・。

ゲームを馬鹿にする人は・・・、

それを理解したうえで批判しているのであろうか・・・？

それにしても・・・、

ソニーのプレステと・・・、

プレステネットは・・・、

本当によく出来ていると思う・・・。

もちろん・・・、

任天堂や・・・、

マイクロソフトも素晴らしいことは、言うをまたない・・・。

それでも・・・、

ソニーは・・・、

群を抜いて素晴らしいと思う・・・。

そう思うのは・・・、

私だけであろうか・・・？

いやいや・・・、

そんなことはあるまい・・・。

Amazon・・・。

Amazon・・・。

と言っても・・・、

南米のアマゾンではない・・・。

ネットショップのAmazonである・・・。

何時頃から利用し始めたのであろうか・・・？

今となっては・・・、

それすらわからない・・・。

問題もあるのであろうが・・・、

便利なものである・・・。

実在の物理店舗では探せない本などが・・・、

ヴァーチャルな、というか仮想店舗では・・・、

100%ではないが・・・、

99・99%の確率で見つかる・・・。

とはいえ、計算したわけではないが・・・、

何となくそんな感じである・・・。

それにしても・・・、

便利であるなあ・・・。

ああ・・・、

Amazon・・・。

ありがとう・・・、

Amazon・・・。

深層心理・・・。

親を憎むのは・・・、

珍しいことではないようである・・・。

親を憎んでいるのは・・・、

深層心理では・・・、

親に愛されたいことの裏返しだそうだ・・・。

トラウマも原因らしい・・・。

暴力を伴わない虐待もあるそうである・・・。

生きるということは・・・、

本当に、大変なものであるなあ・・・。

仕事について・・・。

昔・・・、

数学者の森先生が・・・、

仕事とはなんですか・・・？

との問に対して・・・、

「・・・世間様に対する、言い訳ですかねえ・・・。」

というようなことを述べておられた・・・。

あの、天才数学者の森先生ですらも・・・、

仕事とは・・・、

世間様に対する言い訳であるのだなあ・・・。

そう思った・・・。

やはり・・・、

仕事は・・・、

生きる上で・・・、

大切なものであるのだなあ・・・。

悪気がなく、知らない間に、人の気持ちを傷つけてしまうことに
ついて・・・。

悪気はないのに、知らない間に、人の気持ちを傷つけてしまうことが・・・。

これは、私だけではなく、多くの人が経験していることであると思われる・・・。

悪気がない分、そして、知らず知らずなので、気づくのが遅くなる・・・。

そして・・・、

深い後悔と、罪悪感に苛まれる・・・。

気持ちがかなり凹む・・・。

こんな時・・・、

一体・・・、

どうすれば良いのであろうか・・・？

同じ過ちを繰り返さないようにしたいものである・・・。

眼はそれを探し求めているもの以外は見る事が出来ない。探し求めているものは、もともと心のなかにあったものでしかない・・・
(武田専先生の著書より引用・・・)・・・。

医学博士の、武田専先生の著書のなかに・・・、

「眼はそれを探し求めているもの以外は見る事が出来ない。探し求めているものは、もともと心のなかにあったものでしかない。」

という言葉が出てくる・・・。

これは、有名な言葉であるそうだが・・・、

私は初めて知った・・・。

私なりの解釈では・・・、

人間は・・・、

自分に都合の良いことばかり探し求めている・・・、

ということであろうと思う・・・。

人間は・・・、

自分に都合の良いことを探し求めるし・・・、

逆に・・・、

自分に都合の悪いことから目は背ける・・・。

また・・・、

自分に都合の悪いことは・・・、

話そうとしない・・・。

まあ・・・、

人間は・・・、

神様仏様ではないから・・・、

仕方ないことかもしれない・・・。

しかしながら・・・、

自分に都合の悪いことから・・・、

目を背けずにいたいものであるなあ・・・。

急ぎの書状だから・・・落ち着いてゆっくり書け・・・（小早川隆景の言葉・・・童門冬二先生の著書より引用・・・）・・・。

名将、小早川隆景は・・・、

家臣に言ったそうである・・・。

「これは急ぎの書状であるから、心を落ち着けてゆっくり書け。」

・・・と・・・。

確かにそうである・・・、

慌てると・・・、

何度も失敗してしまう・・・。

急いては事をし損ずる・・・。

急がば廻れ・・・。

である・・・。

偉人の言葉は・・・、

奥が深いものであるなあ・・・。

よい本は自分で所有したくなるものだ・・・（福原麟太郎の著書より引用・・・。）

福原麟太郎は、その著書の中で述べている・・・。

「・・・よい本は自分で所有したくなるものだ・・・。」

・・・と・・・。

それには私も同感である・・・。

よい本は・・・、

片っ端から欲しくなる・・・。

とにかく・・・、

買いたいと思った本は・・・、

買えうる限り買う・・・。

別に・・・、

アレキサンドリア図書館に・・・、

対抗意識はないのであるが・・・。

とにかく本が好きだ・・・。

読みたい本は・・・、

とにかく買っておきたいものである・・・。

買えるときに買っておかなければ・・・、

永遠に読めなくなる・・・、

なんとなく・・・、

そんな気がする・・・。

気のせいであろうか・・・？

いや・・・、

そんなことはあるまい・・・。

子曰く、君子は義に喻り、小人は利に喻る・・・（論語・澁沢栄一
先生の著書より引用・・・。）・・・。

子曰く、君子は義に喻り、小人は利に喻る・・・。

君子は、物事が正しいことかどうか判断基準であるあるが・・・、

小人・・・、

まあ、小者は、目先の利益が判断基準である・・・、

ということらしい・・・。

君子になりたいものであるなあ・・・。

中原中也と小林秀雄・・・。

小林秀雄の著書によれば・・・、

中原中也と小林秀雄は、親友だったらしい・・・。

しかしながら・・・、

一人の女性をめぐり・・・、

三角関係になったらしい・・・。

小林が、中原の恋人を奪ったそうである・・・。

その上・・・、

二人とも・・・、

別の女性と一緒にになったらしい・・・。

一体何なんだ・・・？

渦中の女性の立場は・・・、

どうなるのだ・・・？

結局・・・、

中原の晩年には・・・、

小林と中原は、仲直りしたらしい・・・。

晩年の中原は・・・、

子供さんを幼くして失い・・・、

こころを病んでいたそうだ・・・。

そのため・・・、

食欲に異常をきたし・・・、

巻きずしを3本食べたあと・・・、

家に帰って・・・、

また食事をする・・・、

というようなこともあったようである・・・。

中原も哀れだ・・・。

渦中の女性も哀れだ・・・。

それにしても・・・、

小林秀雄は・・・、

とんでもない男であるなあ・・・。

しかしながら・・・、

日本一の名文家であると思うから・・・、

ううむ・・・、

人間性と作品は・・・、

同列には論じられないものであるなあ・・・。

人は存在するだけで価値がある・・・。

仕事ができる・・・、

お金持ちだ・・・、

頭が良い・・・、

かっこいい・・・、

そんなことも・・・、

大切ではある・・・。

しかしながら・・・、

人は・・・、

ただ・・・、

存在するだけで・・・、

価値があるものです・・・。

眼横鼻直・・・（ナガオカ文庫・禅の言葉より引用・・・）・・・。

道元禅師は・・・、

唐に渡って・・・、

如浄のもとで修行をして・・・、

そして・・・、

悟りを開いたそうである・・・。

そして・・・、

帰国して、語ったそうである・・・。

「眼横鼻直なることを認得してほかに瞞ぜられず。」

・・・と・・・。

これは・・・、

な・・・、

なんと・・・、

眼は横に並んでいて、鼻は縦についている・・・、

ということらしい・・・。

当たり前のことが、大切なことであるようだ・・・。

たしかにそうである・・・、

当たり前のことを・・・、

見失ってしまいがちであるからなあ・・・。

当たり前のことに気づくことは・・・、

大切なことであるなあ・・・。

他人のことは知ってはならぬ・・・（西村恵信訳・無門関より引用・・・。）

無門関第四十五に・・・、

他是阿他という一節がある・・・、

その最後に・・・、

他人のことは知ってはならぬ・・・、

とある・・・。

正確な意味はわからないが・・・、

他人のことは知らないほうが無難である・・・、

ということであろうか・・・？

知らぬが仏という言葉もある・・・。

そういえば・・・、

昔の映画に・・・、

「エンゼル・ハート」という映画があった・・・。

そのキャッチコピーが・・・、

「人間には知ってはならないことがある。」

というものであった・・・。

少なくとも・・・、

他人のことは・・・、

知らないほうが良いのであろうなあ・・・。

ニュートンとホーキング博士・・・（吉永良正先生の「神が愛した
天才数学者たち」より引用・・・。）・・・。

あの、天才物理学者ホーキング博士は・・・、

ニュートンのことが好きではなかったようである・・・。

ニュートンのことを・・・、

「・・・あまり感じのよい人間ではなかった・・・。」

等と、批判しているようである・・・。

天才のみぞ天才を知ると言われるが・・・、

天才と天才との関係は・・・、

難しいものであるなあ・・・。

他人には親切にできるのに・・・。

他人には・・・、

親切にできる・・・。

しかしながら・・・、

家族には・・・。

一番大切な家族なのに・・・、

つい・・・、

イライラしてしまう・・・。

家族に親切にするということは・・・、

難しいことであるなあ・・・。

家族の愛と、結婚の愛・・・（スウェーデンボルグの「霊界日記」より引用・・・）・・・。

スウェーデンボルグによれば・・・、

家族の愛よりも・・・、

結婚の愛の方が・・・、

根源的な愛であるそうだ・・・。

結婚したいものであるなあ・・・。

孟母の三遷・・・。

孟子の母親は・・・、

息子の教育のために・・・、

三回も引っ越したと言われている・・・。

親が違ふと・・・、

子供も違うものであるなあ・・・。

自分の親を見ると・・・、

がっかりするものであるなあ・・・。

少年老い易く 学成り難し ……（朱熹の詩・林田愼之助先生
「漢詩をたのしむ」より引用 ……） ……。

少年老い易く 学成り難し

一寸の光陰 軽んず可からず

未だ覚めず 池塘春草の夢

階前の梧葉 已に秋声

最初の句は皆がよく知るところであるが・・・、

最後まで憶えている人は少ないそうである・・・。

私もそうである・・・。

この詩の意味は・・・、

「少年、若者はたちまち年老いて、学問はなかなかものにならない。

わずかな時間でもおろそかにしてはならぬぞ。

池のつつみの春草がまだ夢からさめないうちに、

階段の前の青桐の葉には、もう秋の声がしのび寄る。」

ということらしい・・・。

何とも味わい深いものであるなあ・・・。

raindeer・・・。

先日、ラジオ放送で耳にしたが・・・、

トナカイのことを・・・、

英語では・・・、

raindeerというそうである・・・。

もうすぐクリスマスなんだなあ・・・。

それにしても・・・、

なぜ・・・、

raindeerというのだろうか・・・？

言語というものは、奥が深いものであるなあ・・・。

そういえば・・・、

サンタクロースは・・・、

英語では・・・、

何と言うのであろうか・・・？

調べればいいことなのだが・・・、

それが、面倒くさいのである・・・。

私は怠け者であるなあ・・・。

学問ほどの道楽はない・・・江戸時代の商人の言葉・・・（どなたかの著書からの引用・・・。）・・・。

以前、どなたかの歴史の本を読んだ・・・。

斎藤孝先生か、白駒先生の著書だったと記憶しているが・・・、

違っているかもしれない・・・。

江戸時代最大の国学者である本居宣長が（もしかすると、賀茂真淵だったかもしれない・・・。）・・・、お金持ちの商人に、学問を講じていたそうである・・・。

その時、商人のうちの一人が言ったそうだ・・・。

「・・・先生、私どもはあらゆる道楽をし尽くしましたが、学問ほどの道楽はありません・・・。」

・・・と・・・。

なるほど・・・、

奥が深い言葉であるなあ・・・。

小説と詩歌・・・（福原麟太郎随想全集第2巻より引用・・・）・・・。

福原麟太郎によれば・・・、

19世紀のイギリスでは・・・、

文学の研究対象は・・・、

小説ではなく、詩歌だったそうである・・・。

日本では・・・、

逆のような気がする・・・。

有名な作家は多く研究されているが・・・、

詩人は、限られた人しか研究されていないのではあるまいか・・・。

気のせいであろうか・・・？

いや・・・、

そんなことはあるまい・・・。

それにしても・・・、

所変われば品変わるという言葉は・・・、

本当のことであるなあ・・・。

小人閑居して不善をなす・・・（「大学」より引用・・・）・・・。

小人閑居して不善をなす・・・。

「大学」にある言葉らしい・・・。

意味はそのまんまで・・・、

つまらない人間は、暇になるとよくないことをする・・・、

ということである・・・。

自ら顧みれば・・・、

恥じ入るばかりである・・・。

常に忙しく働いていたものであるなあ・・・。

突撃ラーメン・・・？

昔・・・、

赤坂見附に・・・、

とあるラーメン屋があった・・・。

屋号は忘れた・・・。

そこに・・・、

突撃ラーメンなるものがあつた・・・。

上司の説明によれば・・・、

なんでも・・・、

おろしたにんにくが・・・、

たっぷりと入っているそうである・・・。

確かに美味かつた・・・。

しかしながら・・・、

何かに突撃しようという気にはならなかつた・・・。

一体・・・、

何に突撃するのであろうか・・・？

今となっては・・・、

そんなことはどうでも良いことではあるが・・・？

それにしても・・・、

あのラーメン屋は・・・、

今でも健在なのであろうか・・・？

そして・・・、

突撃ラーメンは・・・、

今でも、メニューにあるのであろうか・・・？

時々思い出す・・・、

赤坂見附のラーメン屋のことを・・・。

そして・・・、

突撃ラーメンのことを・・・。

プリンターが故障した・・・。

プリンターが故障した・・・。

この時期に・・・。

かたちあるものは壊れるものであるから・・・、

いたしないことであるかあ・・・。

それにしても・・・、

・・・。

西行・・・。

西行は・・・、

人造人間を作ったらしい・・・。

正しく・・・、

日本のフランケンシュタイン博士である・・・。

しかしながら・・・、

不完全な人造人間だったため・・・、

後始末に困ったらしい・・・。

やはり・・・、

そんなことはするものではないのであるなあ・・・。

ネオパン400とトライX・・・。

中学時代・・・、

写真部に所属していた・・・。

当時はデジカメなど夢のまた夢で・・・、

フィルムカメラだった・・・。

カラーフィルムは自分たちでは現像できなかったが・・・、

白黒フィルムは現像できたので・・・、

皆白黒フィルムを使っていた・・・。

代表的なものは、富士フィルムのネオパン400だった・・・。

しかしながら・・・、

かっこつけて・・・、

コダックのトライXを使ってみたりもしたものである・・・。

今となって思えば・・・、

ネオパン400の方が高品質だったのであろうが・・・、

若い頃、特に子供の頃は・・・、

よく分からずに・・・、

かっこいいと思ったものを、買って使ってしまうがちである・・・。

今となっては・・・、

いい思い出であるなあ・・・。

釣り堀の思い出・・・。

子供の頃・・・、

釣りが好きだった・・・。

そのため・・・、

家族に、釣り堀に連れて行ってもらっていた・・・。

とはいえ・・・、

今となって思えば、数えるほどなのであろうが・・・。

30センチ以上の鯉が釣れることは・・・、

子供の私にとっては、もの凄いいことであった・・・。

祖母と母に連れて行ってもらった記憶はあるが・・・、

父と釣り堀に行った記憶はない・・・。

そのかわり・・・、

父は、海へ釣りに行ってくれた・・・。

祖母は天に還って・・・、

両親も年老いた・・・。

そろそろ親孝行でもしよう・・・。

そう思う年の瀬である・・・。

実践すること・・・。

多くの学者の先生が・・・、

著書の中で・・・、

実践することの大切さを述べておられる・・・。

そこで私は・・・、

今年こそは、という思いで・・・、

積善改過の実践を心がけてきた・・・、

しかしながら・・・、

実際には・・・、

ほとんど実践できなかった・・・。

言うは易く行うは難し・・・、

である・・・。

来年こそは・・・、

実践を重んじていこうと思う年の瀬である・・・。

大晦日に・・・（ピンクフロイドの「原子心母」を聴きながら・・・）・・・。

今年は・・・、

能登半島の大震災で始まった・・・。

暗いニュースが多く・・・、

社会不安や人間不信が高まった一年だったような気がする・・・。

自分自身も・・・、

苦しい一年であった・・・。

そういう人は、私ばかりではあるまい・・・。

来年こそは・・・、

素晴らしい一年になることを、切に祈っている・・・。

子曰く、徳孤ならず、必ず隣あり。（論語・渋沢栄一先生の著書
「孔子・人間、どこまで大きくなれるか」より引用・・・。）
（ガーネット・クロウ「この手を伸ばせば」を聴きながら・・・。）

渋沢栄一先生の著書、「孔子・人間どこまで大きくなれるか」によれば・・・、

論語に・・・、

「子曰く。徳孤ならず、必ず隣あり。」とあるそうだ・・・。

渋沢先生によれば・・・、

人徳のある人は・・・、

どんな場合でも・・・、

その人徳を慕ってくれる人がいるので・・・、

決して、孤立無援になることはないそうである・・・。

私は孤立しやすいからなあ・・・、

人徳がないのであるなあ・・・。

何とかして・・・、

人徳を身に着けたいものであるなあ・・・。

そうであるなあ・・・、

人徳を身につけることを・・・、

新年の抱負としよう・・・。

読書最も能く人を移す。畏るべきかな書や。(知至出版社・川口雅昭先生著「吉田松陰・修養訓」より引用・・・)・・・。

川口雅昭先生の著書によれば・・・、

あの、吉田松陰先生は・・・、

こんな言葉を遺しておられるそうである・・・。

「読書最も能く人を移す。畏るべきかな書や。」と・・・。

その意味は・・・、

読書というものは、最もよく人の心を変えるものである。書というものは、何と恐るべきものだなあ・・・。

ということである・・・。

確かに・・・、

どんな本を読むかによって・・・、

人生というものは・・・、

大きく変わってしまうものである・・・。

読書をしないのは問題外であるが・・・、

なるべく良い本・・・、

佳書を読みたいものである・・・。

読書というものは・・・、

素晴らしいものであるなあ・・・。

冬の寒さと夏の暑さ・・・（ガーネット・クロウ「この冬の白さに」
を聴きながら・・・。）・・・。

冬の寒さは骨身に伝える・・・。

夏の暑さと同じ程に・・・。

暑さがストレスとなるように・・・、

寒さもストレスになるそうである・・・。

まあ・・・、

ネットの情報ではあるが・・・。

夏には冬が恋しくなり・・・、

冬には夏が恋しくなる・・・。

そう思うのは私だけであろうか・・・？

いや・・・、

そんなことはあるまい・・・。

ああ・・・、

人間とは、我儘な生き物であるなあ・・・。

驥一日千里、駑馬十駕、則亦及之矣（荀子・竹村健一先生「荀子」
人生で学ぶべきことより引用・・・。）・・・。

竹村健一先生の著書によれば・・・、

荀子の中に・・・、

驥は一日にして千里なるも、駑馬も十駕すれば、則ち亦これに及ぶ・・・、

とあるそうである・・・。

「足の速い馬は一日千里の道を行くことができる。しかし、足の遅い馬とて、怠らず十日も歩めば、同じように千里の道に到達することができるのだ。鈍才も努力によっては大事を達成することができる、というわけだ。」

というふうに、竹村先生は解説しておられる・・・。

また・・・、

数学者の、藤原正彦先生は・・・、

「・・・どんな天才でも、神であるはずはない・・・。」

と書いておられる・・・。

凡人でも・・・、

努力次第で・・・、

大事を成し遂げることができるのであるなあ・・・。

努力というものは・・・、

本当に・・・、

大切なものであるなあ・・・。

巳年について・・・（ガーネット・クロウの「closer」を聴きながら・・・。）・・・。

今朝・・・、

ラジオ番組を聴いていたら・・・、

パーソナリティーの女性が・・・、

「巳年は、これまでの努力が実る年なんですって・・・。」

と話していた・・・。

おお・・・、

ああ・・・、

今年こそ・・・、

これまでの努力が実れば良いなあ・・・。

何を信ずるべきか・・・シュニツラーの小説「盲目のジェロニモとその兄」（公方俊良先生「般若心経90の智慧」より引用・・・）（福山雅治さんの「道標」を聴きながら・・・）

公方俊良先生の著書によれば・・・、

シュニツラーの小説に・・・、

「盲目のジェロニモとその兄」という小説があるそうである・・・。

そのあらすじは・・・、

以下のような感じである・・・。

兄カルロと、弟ジェロニモという、なかのよい兄弟がいた・・・。

子供の頃から一緒に遊んでいた・・・。

ところが・・・、

吹き矢で遊んでいたときに・・・、

弟ジェロニモの眼に、屋が刺さって、ジェロニモは失明した・・・。

そして・・・、

両親がなくなり・・・、

二人で、大道芸をしながら生活していた・・・。

ある日、一人の男がカルロの帽子に、1フラン入れた・・・、

そして、こともあろうに、弟ジェロのもの耳元で・・・、

「今、お前の連れに、20フラン渡したから騙されるなよ。」

と囁いて去って行った・・・。

ジェロニモは騙されたのである・・・。

弟ジェロニモは、20フランという大金は見ることがなかったので・・・、

兄カルロに、触らせてくれと頼んだ・・・。

カルロは・・・、

そんな話は嘘だと話した・・・。

しかし・・・、

弟ジェロニモは信じなかった・・・。

カルロは、弟が自分の言うことを信じてくれないのは、自分のせいで、弟が失明してしまったからだと思っただ・・・。

そこで・・・、

「今は見せられない、後で見せてやろう。」

そう言って・・・、

同じ木賃宿に泊まっている商人の財布から、20フランを盗んだ・・・。

ジェロニモに見せると、ジェロニモは喜んだ・・・。

翌日・・・、

宿を出て歩いていると・・・、

カルロは、当然のことながら、警察官から逮捕された・・・。

その時、弟ジェロニモは、はじめて自分が昨日の男に騙されたことを理解した・・・。

そして、兄カルロに抱きついて・・・、

自分が兄カルロを信じなかったことを詫びた・・・。

兄カルロは、弟の信頼を取り戻した喜びで輝いていた・・・。

なんとも、皮肉な、しかし、感動的な作品である・・・。

私は原作を読んでいないが・・・、

ぜひ読んでみたいと思う・・・。

何を信じるか・・・、

本当に信じるものを見据える心があれば・・・、

騙されることもなく・・・、

信じるべき人を、信じ抜くことができるのであろうが・・・、

我々凡夫には難しい・・・。

公方先生も、そう結んでおられる・・・。

人を本当に信じるとは・・・、

騙されずに・・・、

本当に信ずべき人を、信じ抜くことなのであろう・・・。

格物致知・・・（「大学」より・・・。）

「大学」に・・・、

格物致知という言葉が出てくる・・・。

事物の道理をきわめて・・・、

自分の天から与えられた知性をきわめつくすこと・・・。

天下の事物にはそれぞれ理が宿っているから、一つ一つの事物の理を徹底的にきわめつくすことが、やがて自分の知識を明らかにすることになる・・・。

と・・・、

朱子は説いたそうだ・・・。

ううむ・・・、

何とも味わい深いものであるなあ・・・。

三学の教え・・・（斎藤孝先生著「最強の人生指南書・佐藤一斎
「言志四録」を読む」・・・より引用・・・。）

佐藤一斎先生は書き遺している・・・。

「少にして学べば、則ち壮にして為すこと有り。

壮にして学べば、則ち老いて衰えず。

老いて学べば、則ち則ち死して朽ちず。」

おお・・・、

ああ・・・、

本当に・・・、

学ぶということは・・・、

大切なことであるのだなあ・・・。

子、怪・力・乱・神を語らず。・・・（渋沢栄一先生著（「論語」
人間、一生の心得）より引用・・・。）・・・。

渋沢先生の本で読んだ・・・。

「論語」に・・・、

「子、怪・力・乱・神を語らず。」

とあるそうだ・・・。

人間は、常識はずれの武勇伝や・・・、

異常なことを語って・・・、

自分を凄い人間だと見せたがる・・・。

しかしながら・・・、

それでは・・・、

何の役にも立たない・・・。

それどころか・・・、

世の中を乱すばかりである・・・。

常識的な・・・、

普通の人が・・・、

一番いいのであろうなあ・・・。

恋愛について・・・。

友人から・・・、

恋愛の相談を受けた・・・。

よりによって・・・、

私が恋愛の相談を受けるとは・・・。

お門違いもいいところである・・・。

私は・・・、

恋愛は・・・、

からっきし駄目である・・・。

ことごとく失敗している・・・。

というか・・・、

私の恋愛は・・・、

すべて・・・、

片思いで終わっている・・・。

恥ずかしい話であるなあ・・・。

今年こそは・・・、

真剣に恋愛をしてみたいものであるなあ・・・。

マーガリンと食パン・・・。

最近・・・、

こういう訳か・・・、

やたらと、マーガリンを食べたくなる・・・。

食パンに・・・、

マーガリンをたっぷりと塗りたくって食べている・・・。

私が異常なのであろうか・・・？

いやいや・・・、

そんなことがあるはずが・・・、

いや・・・、

やっぱり・・・、

十分ありえるなあ・・・。

B級グルメ・・・？

最近・・・、

屋台で売っている・・・、

たこ焼き・・・、

唐揚げ・・・、

回転焼き・・・、

等の、B級グルメにハマっている・・・。

B級と言うには・・・、

あまりにも美味すぎる・・・。

そのうえ・・・、

なんか・・・、

元気になる・・・。

気立ての良い女性店員さんのためであろうか・・・？

それにしても・・・、

B級と言うには・・・、

あまりにも美味すぎる・・・。

九仞の功を一簣に虧く・・・(きゅうじんのこうをいつきにかく・・・)。
・・・。

書経に・・・、

九仞の功を一簣に虧く・・・、

きゅうじんのこうをいつきにかく・・・。

という言葉が出てくるらしい・・・。

その意味は・・・、

長年の努力も・・・、

最後の僅かな努力を惜しむと・・・、

報われなくなる・・・、

という意味らしい・・・。

おお・・・、

ああ・・・、

最後の最後まで・・・、

努力は続けたいものであるなあ・・・。

百人一首・・・(ZARDの「止まっていた時計が今動き出した」を
聴きながら・・・)・・・。

高校時代、古文の授業で・・・、

百人一首を憶えさせられた・・・。

今ではほとんど忘れてしまったが・・・、

一番好きだった和歌は、今でも憶えている・・・。

それは・・・、

わたのはら

八十島かけて

漕ぎいでぬと

人には告げよ

海人の釣船

である・・・。

意味は・・・、

大海原を・・・、

たくさんの島をめざして・・・、

漕いでいったと・・・、

都にいる愛しい人にだけは、伝えておくれ・・・、

海人の釣船よ・・・。

たしかこんな意味だったと思う・・・。

擬人法と・・・、

体言止めが使われている、技巧的な和歌でもある・・・。

作者は・・・、

小野篁である・・・。

小野小町の父親であるとか・・・、

夜になると・・・、

閻魔庁で、閻魔大王様のお手伝いをしていた・・・、

等・・・、

いろんな伝説のある人物である・・・。

そんな小野篁が・・・、

遣唐使に反対して・・・、

島流しにあい、流されるときに詠んだものである・・・。

まあ・・・、

菅原道真公の・・・、

遣唐使の廃止の建白によって・・・、

遣唐使が廃止されたあと・・・、

小野篁は許され・・・、

都に戻り・・・、

参議にまでなったのであるが・・・。

それにしても・・・、

良い歌であるなあ・・・。

香炉峰の雪・・・。

香炉峰の雪・・・。

枕草子の中にも登場する・・・。

原典は・・・、

白居易の七言律詩である・・・。

「香炉峰の雪は、簾を撥けて看る」

というものらしい・・・。

何とも味わい深いものであるなあ・・・。

辞書で調べるということ・・・。

辞書で調べる・・・、

国語辞典・・・、

漢和辞典・・・、

古語辞典・・・、

等など・・・。

けっこう面倒くさい・・・。

しかしながら・・・、

文章を書くときには・・・、

辞書で調べるのが相当である・・・。

ネットで検索するのが手っ取り早い・・・。

しかしながら・・・、

それでは・・・。

安岡正篤先生は・・・、

著書の中で・・・、

「・・・煩わしさを厭うは大病・・・。」

と述べておられる・・・。

煩わしくとも・・・、

面倒くさかろうとも・・・、

辞書で調べるのが・・・、

一番の勉強になる・・・。

そう思うのは、私だけであろうか・・・？

いや・・・、

そんなことはあるまい・・・。

無計画の計画・・・（下村湖人著「次郎物語」より引用・・・）・・・。

下村湖人の「次郎物語」の中に・・・、

「無計画の計画」という言葉が出てくる・・・。

何も計画を立てない、という計画なのである・・・。

小学生時代に読んだ時に・・・、

妙に感心したものである・・・。

どういう訳か・・・、

祖母が買ってきてくれた・・・。

子供には、難しすぎたが・・・、

妙に、印象に残っている・・・。

やたらと、予定や計画を立ててみても・・・、

結局、うまくいかないことも多々ある・・・。

場合に寄っては・・・、

何の計画も立てずに・・・、

いきあたりばったりで行くのも・・・、

ひとつの方法なのかもしれない・・・。

そう思うのは・・・、

私だけであろうか・・・？

いやいや・・・、

そんなことはあるまい・・・。

The last alchemist・・・。

数学史の本を読んでもみると・・・、

当然のことながら、あの、ニュートンのことが出てくる・・・。

驚くべきことに・・・、

少なくとも私は驚いたのであるが・・・、

あの、ニュートンは、錬金術の研究に心血を注いでいたらしい・・・。

経済学者のケインズが、ニュートンの蔵書を落札して、研究したことにより判明したらしい・・・。

あの、大天才ニュートンも・・・、

お金が好きだったのであろうか・・・？

晩年には・・・、

造幣局長官にまでなったらしい・・・。

天才も、お金が好きなのかなあ・・・？

だとすると・・・、

凡人がお金を欲しがるのは、当然のことであるなあ・・・。

アフリカ・・・（高橋和夫Ⅱ訳遍・スウェーデンボルグの「霊界日記」より引用・・・。）・・・。

スウェーデンボルグによれば・・・、

アフリカに住む人々の霊性は・・・、

非常に高いそうである・・・。

また・・・、

スウェーデンボルグの神学も・・・、

アフリカで、最も広く受け入れられている・・・、

とのことである・・・。

人類の故郷・・・、

アフリカ・・・。

一度は行ってみたいものである・・・。

ああ・・・、

アフリカ・・・。

憧れの・・・、

アフリカ大陸・・・。

寢所は別にしたほうが良い・・・？（安岡先生の著書・・・？
り引用・・・。）・・・。

安岡先生の著書に書いてあったと思ったので・・・、

調べてみたが、どの本に書かれてあるのか、わからなくなってしまった・・・。

もしかすると、違う先生の著書だったのかもしれない・・・。

とにかく・・・、

結婚しても・・・、

夫婦の寢所は別にしたほうが良いとのことである・・・。

理由は忘れた・・・。

ただ・・・、

徳川家康公等・・・、

歴史上の偉人は・・・、

夫婦の寢所を別にしていたそうである・・・。

まあ・・・、

私は独り者なので、いつも一人で寝ているのであるが・・・。

これは・・・、

独り者の、妬み嫉みではない・・・。

立派な方々が、述べておられて・・・、

実践しておられるのであるから・・・。

しかしながら・・・、

私が言うと・・・、

妬み嫉みになってしまうなあ・・・。

やはり・・・、

人徳というものが必要であるなあ・・・。

塙保己一さん・・・。

塙保己一さん・・・。

江戸時代の国学者・・・。

眼が不自由であるにもかかわらず・・・、

刻苦勉励して・・・、

群書類従を編纂した・・・。

真に驚くべき天才であり・・・、

努力の人である・・・。

眼と耳の両方が不自由でありながら、偉大になった奇跡の人、あのヘレン・ケラーさんも尊敬していたという・・・。

努力次第で・・・、

人間は・・・、

偉大になれるのであるなあ・・・。

言い訳している暇など無いなあ・・・。

ガーネット・クロウと祖母・・・。

世の中には・・・、

不思議なものもあるものである・・・。

私は、ガーネット・クロウのファンなのであるが・・・、

ファンになったのは・・・、

ガーネット・クロウ解散後である・・・。

そして・・・、

不思議なのは・・・、

そのきっかけである・・・。

祖母が寝込んで・・・、

亡くなる直前に・・・、

私は、ネットで音楽を聴いていた・・・。

ベットに寝転んで・・・。

ZARDファンなので・・・、

ZARDの曲を聴いていた・・・。

すると・・・、

聴いたことのない曲が・・・。

それは・・・、

ガーネット・クロウの「風とRAINBOW」だった・・・。

その瞬間・・・、

私は、ガーネット・クロウのファンになった・・・。

それからしばらくして・・・、

祖母は天へと旅立った・・・。

私は今でも・・・、

ZARDとガーネット・クロウを聴き続けている・・・。

ZARDは元々ファンだったのだが・・・、

ガーネット・クロウのファンになったのは・・・、

祖母が病床についたからである・・・。

私は・・・、

祖母が・・・、

ガーネット・クロウを覚えてくれたのだと信じている・・・。

思い過ごしであろうか・・・？

いや・・・、

そんなことはあるまい・・・。

Time is Life・・・（谷口雅治先生の著書「生命の実相」より引用・・・。）・・・。

Time is money ㄖㄢˊ・・・、

ベンジャミン・フランクリンの言葉らしい・・・。

時は金なり・・・。

それほどまでに・・・、

時間は大切だということだ・・・。

しかしながら・・・、

谷口雅治先生は・・・、

時間は、お金のような安いものではないと述べられている・・・。

お金や財産は、失っても・・・、

また取り戻すことができるが・・・、

失われた時間は・・・、

二度と取り戻すことは出来ない・・・、

・・・と・・・。

正しく・・・、

Time is Lifeである・・・。

そう言うことは、過言であろうか・・・？

いやいや・・・、

そんなことはあるまい・・・。

三年にして通、五年にして来、十年にして物……？（安岡先生？
の著書より引用……。）……。

三年にして通……、

五年にして来……、

十年にして物……。

以前、安岡先生の著書でこんな言葉を拝見した……。

しかしながら……、

どの本に書かれていたのか……、

調べてみたが判らなかった……。

もしかすると、他の先生の著書だったのかもしれない……。

三年にして通……、

これは、文字の通り、通になるという意味だったと思う……。

五年にして来……。

これは、意味はわからない……。

しかしながら……、

ネットで検索してみたら……、

夏目疎石先生の「草枕」にも出てくるらしい……。

しかし、恥ずかしながら・・・、

「草枕」は以前持っていたが、読んでいない上に、紛失してしまった・・・。

ゆえに・・・、

真偽の程は定かではない・・・。

十年にして物・・・。

これは文字の通りで、物になるという意味だったと記憶している・・・。

吉本隆明先生も著書の中で・・・、

「・・・どんなことでも、10年もやっていれば物になる・・・。」

というようなことを書いておられた・・・。

ううむ・・・、

なかなかいい言葉である・・・。

五年にして来、は置いておくとしても・・・、

三年やれば、通になり・・・、

十年やれば、物になる・・・、

というわけである・・・。

励みになる言葉であるなあ・・・。

俗っぽく言えば・・・、

継続は力なり、と言ったところであろうか・・・？

何事も、続けることが肝腎である・・・。

祖母と五年日記・・・。

祖母は・・・、

日記をつけていた・・・、

何十年も・・・。

その日記は、五年日記なるものであった・・・。

一冊で、五年間分の日記を書けるという代物であり・・・、

分厚く大きかった・・・。

祖母は毎晩・・・、

テレビの前で日記をつけていた・・・。

私は、そんな祖母の姿を、不思議な感じで見ていた・・・。

そんな祖母も・・・、

九年前に、天へと旅だった・・・。

祖母の死後・・・、

日記を見ると・・・、

な・・・、

なんと・・・、

驚くべきことに・・・、

私に与えたお小遣いの金額が・・・、

詳細に記載されていた・・・。

私は・・・、

何となく・・・、

恥ずかしくなった・・・。

それはさておき・・・、

祖母亡き後・・・、

今度は、私が日記をつけるようになった・・・。

五年日記という高級なものではなく・・・、

ただの大学ノートに、なぐり書きしているだけなのであるが・・・。

日記をつけていると・・・、

時々・・・、

祖母のことを思い出す・・・。

祖母は・・・、

どんな思いで日記をつけていたのであろうか・・・？

今となつては・・・、

それは謎のままである・・・。

ドストエフスキーとトルストイ・・・。

ドストエフスキー・・・、

トルストイ・・・。

両者とも、ロシアが産んだ天才作家である・・・。

今のロシアの暴虐は、言語道断である・・・。

しかしながら・・・、

それは、国家としてのロシアの問題であつて・・・、

学問や芸術などの、文明までも否定しようとは思わない。

話がそれた・・・。

ドストエフスキーも、トルストイも天才作家であり・・・、

浩瀚な書物を数多く遺している・・・。

それに関しては、二人とも同じと言える・・・。

しかしながら・・・、

様々な文献を渉猟すると・・・、

二人の、人間性の違いが浮き彫りになってくる・・・。

ドストエフスキーは・・・、

召使に対して、日常的に暴行を加えるなど・・・、

その人間性は愚劣である・・・。

一方・・・、

トルストイは・・・、

裕福な地主の家に生まれながら・・・、

小作人に対しても、非常に親切で優しい人だったようである・・・。

同じ天才作家でも、こんなにも違いがある・・・。

当然のことながら・・・、

私は、トルストイを愛しているが・・・、

ドストエフスキーは、取るに足りない人間だと思っている・・・。

まあ・・・、

その文学作品まで否定するつもりはないが・・・。

しかしながら・・・、

人間的に立派であったトルストイが・・・、

晩年に、細君と喧嘩して・・・、

停車場で行き倒れになったのは・・・、

何とも皮肉なことである・・・。

人間というもの・・・、

人生というもの・・・、

よくわからないものであるなあ・・・。

国際条約集・・・。

本屋さんに行ったら・・・、

国際条約集なる本を目にした・・・。

何となく惹きつけられて、買ってしまった・・・。

目的の本は見つからなかったが・・・、

変わった本を買うことが出来たものである・・・。

辞書のような・・・、

六法のような・・・、

そんな感じの本である・・・。

いろんな条約があるものである・・・。

暴力及びハラスメント条約・・・、

持続可能な開発目標・・・（これが所謂SDGsである・・・）・・・、

アイヌ施策推進法・・・、

等等・・・。

ううむ・・・、

色んな条約があるものであるなあ・・・。

祖母に対して、絶対に言わなかったこと・・・。

子供の頃・・・、

私は、祖母に育てられた・・・。

親はいるが、祖母が私の面倒を見ていた・・・。

しかしながら・・・、

いかんせん、祖母は厳しかった・・・。

毎日のように、ビンタされていた・・・。

それで・・・、

祖母とはよく喧嘩したものだ・・・。

私は、祖母に対して・・・、

「鬼婆」・・・、

「クソババア」・・・、

「○ね」・・・、

等等・・・、

今思えば、随分とひどいことを言ったものである・・・。

ただ・・・、

喧嘩しても・・・、

祖母に対して、絶対に言わなかった言葉がある・・・。

それは・・・、

「臭い」・・・、

という言葉である・・・。

祖母は働き者で・・・、

農業と養豚を頑張っていた・・・。

その苦勞をよく知っているからこそ・・・、

どんなに喧嘩しても・・・、

「臭い」とだけは言わなかった・・・。

祖母は強かったが・・・、

お洒落だったので・・・、

さすがに・・・、

「臭い」・・・、

とは、言えなかった・・・。

それを言えば・・・、

いくら強い祖母とはいえ・・・、

傷ついてしまうと思ったからである・・・。

そんな祖母も・・・、

九年前に・・・、

鬼籍に入った・・・。

私の自慢の婆さんだった・・・。

私は今でも・・・、

自分の判断は正しかったと思っている・・・。

祖母に対して・・・、

「臭い」・・・、

とだけは、言わなかったことを・・・。

死に行った日・・・自殺について・・・。

昔・・・、

ひきこもりだった頃・・・、

死に行ったことがある・・・。

夜中に・・・、

海まで・・・、

車を走らせた・・・。

海について・・・、

飛び込もうと思った・・・、

そのつもりだった・・・。

しかしながら・・・、

恐ろしくて・・・、

車から降りることすら出来なかった・・・。

仕方ないので・・・、

真夜中過ぎに・・・、

家まで帰った・・・。

そして、何とか眠った・・・。

そして次の日・・・、

目が覚めて・・・、

何気なく新聞を読んだ・・・。

そして・・・、

三面記事に目を通した時・・・、

驚愕した・・・。

なんと・・・、

昨夜、私が飛び込もうと思ったのと同じ場所で・・・、

飛び込んだ方の記事が・・・。

・・・。

初夏だったのだが・・・、

私は、震えが止まらなかった・・・。

その場所には・・・、

ずっと、花束が飾られていた・・・。

そんな想い出がある・・・。

年間、二万人以上の方々が・・・、

自ら生命を絶っておられる・・・。

決して、対岸の火事ではない・・・。

よくよく考えるべきことである・・・。

早寝早起き・・・？

早寝早起きが良いとは、昔から言われていることである・・・。

しかしながら・・・、

そういうわけでもない、という学者の方もおられる・・・。

どちらがいいのか、私にはわからない・・・。

ただ・・・、

以前、ラジオ番組の中で・・・、

作家の、五木寛之先生が語っておられたが・・・、

五木先生は・・・、

朝方眠りについて・・・、

夕方起きる・・・、

という、生活サイクルを、何十年も続けておられるそうである・・・。

そのほうが、調子が良いとか・・・。

常識というもの・・・、

一度は・・・、

その殻を破ってみることも、必要なであろう・・・。

何となくそう思った・・・。

当たり前のことではあるが・・・。

事故で犠牲になられた、耳の不自由な学生さんの逸失利益は・・・、

健常者の逸失利益と同等である・・・、

という、控訴審判決が下った・・・。

当然といえば、当然のことなのであろうが・・・、

画期的な判決であることは、言うをまたないであろう・・・。

現代日本では・・・、

当たり前のことを言うことが・・・、

憚られてしまう・・・。

そんな気がするの・・・、

私だけであらうか・・・？

いや・・・、

そんなことはあるまい・・・。

日本で唯一の司法官であり・・・、

国民の人権を守る・・・、

最後の砦である裁判官の方々に・・・、

改めて、敬意を表する・・・。

日本が・・・、

当たり前前国になりますように・・・。

功過格と準提咒・・・（安岡正篤先生著・立命の書「陰隲録」を読む・・・より引用・・・。）・・・。

袁了凡是雲谷禪師から・・・、

功過格と準提咒を与えられたそうである・・・。

功過格とは、善惡の基準を書いたものであり・・・、

準提咒とは、御符のようなものだそうだ・・・。

袁了凡は、功過格と準提咒を携えて・・・、

謙虚利中、積善、改過に励み・・・、

志を立てること、すなわち立命によって・・・、

宿命を動かし・・・、

運命を切り開いていった・・・。

そこで・・・、

凡人を終了したということ・・・、

了凡と名乗ったとのことである・・・。

ああ・・・、

私も・・・、

功過格と準提咒が欲しいものであるなあ・・・。

しかしながら・・・、

よく考えてみれば・・・、

安岡先生の本こそが・・・、

功過格であり・・・、

準提咒であるのかもしれない・・・。

とにかく最近、思い遣りがない・・・。

とにかく最近・・・、

思い遣りがない・・・。

思い遣りがないから・・・、

他人の気持ちを大切にしない・・・。

他人の気持ちを大切にしないから・・・、

痛ましい、事件・事故が起きる・・・。

本当に・・・、

ニュースを聞くのがいやになる・・・。

佳書を携えて・・・、

積善・改過に励もう・・・。

積善の家には必ず余慶あり・・・。

易経に・・・、

積善の家には必ず余慶あり・・・、

積悪の家には必ず余殃あり・・・。

とあるそうだ・・・。

意味は・・・、

善い行いをなしている家は、子々孫々まで栄え、善いことが有り・・・、

悪い行いをしている家には、子孫が栄えず、悪いことが起きる・・・、
というような意味らしい・・・。

ところが・・・、

である・・・。

確か・・・、

五木寛之先生の著書に書かれてあったと思うのだが・・・、

調べたが、わからなかった・・・。

何が言いたいかというと・・・、

インドにも同じようなことわざがあるらしい・・・。

それは・・・、

確か・・・、

積善の人に必ず余慶あり・・・、

積悪の人には必ず余殃あり・・・。

というものだったと記憶している・・・。

読めばわかると思うが・・・、

中国では、家・・・、

インドでは、人・・・、

になっている・・・。

所変われば品変わるところであろうか・・・？

日本や中国では、家を重んじ・・・、

インドでは、その人個人を重んじる・・・、

といったところか・・・。

五木先生も、不思議がつておられたように思う・・・。

もしかしたら・・・、

違う先生の本だったのかもしれない・・・。

兎にも角にも・・・、

善い行いをすれば、善いことがあるということだ・・・。

ブツダ様の言葉にも、あつたような気がする・・・。

積善・改過に励みたいものである・・・。

鍛錬・・・。

あの、宮本武蔵は・・・、

千日をもって鍛・・・、

万日をもって錬・・・、

と述べたそうである・・・。

一年は、365日であるから・・・、

千日は・・・、

およそ三年・・・。

これはいい・・・。

万日は・・・、

な・・・、

何と・・・、

およそ三十年ということになる・・・。

ああ・・・、

鍛錬というものは・・・、

時間がかかるものであるなあ・・・。

知行合一・・・。

知行合一・・・。

学んだこと、知っていることは実践して初めて本物になる・・・。

というような意味だったと思う・・・。

知っていいことと、行動が一致しなければならない・・・、

という意味だったかもしれない・・・。

とにかく・・・、

知っているだけでは意味がなく・・・、

実践して初めて意味があるということか・・・？

儒学の中でも・・・、

陽明学は・・・、

特に、実践を重んずるようである・・・。

私なんぞは・・・、

学んだことの・・・、

百分の一も実践できていない・・・。

これでは・・・、

・・・。

とにかく・・・、

少しでも実践できるように・・・。

謙虚利中・積善・改過に励もう・・・。

高島易・・・。

高島易を買った・・・。

最近・・・、

易経・・・、

四柱推命・・・、

タロット・・・、

等の占いに関心が湧いてきたので・・・、

何となく買ってしまった・・・。

とにかく・・・、

ここで・・・、

そろそろ・・・、

運が開ければいいのだなあ・・・。

ノア・・・。

旧約聖書によれば・・・、

あの、ノアの方舟で有名な、ノアは・・・、

義しき人にしてその世の完き者であったので・・・、

な・・・、

なんと・・・、

950歳まで生きたそうである・・・。

洪水があった時には、600歳だったそうだ・・・。

ううん・・・、

しかしながら・・・、

そんなに長生きしたいものであろうか・・・？

秦の始皇帝は、不老長寿の秘薬を探し求めたというが・・・。

私はそんなに長生きしたいとは思わない・・・。

しかしながら・・・、

もっと年をとったら・・・、

長生きしたいと思うもののかなあ・・・？

現世利益和讃・・。

浄土真宗には・・・、

現世利益和讃というものがある・・・。

私も・・・、

毎朝毎晩・・・、

仏壇の前で唱えているのであるが・・・。

とにかく・・・、

南無阿弥陀仏・・・、

と唱えれば・・・、

現世で、ご利益が得られるというものである・・・。

賛否両論あるのかもしれないが・・・、

現世でのご利益を願うのが人情ではあるまいか・・・。

禹歩の方と無想転生・・・。

陰陽師の・・・、

禹歩の方・・・。

高貴な身分の方のために・・・、

千鳥足で・・・、

北斗七星の形に歩く・・・。

そして・・・、

邪気を払う・・・。

なんかそんな感じだったと思う・・・。

そこそこ思い出したのが・・・、

北斗の拳の・・・、

無想転生・・・、

である・・・。

無想転生は・・・、

禹歩の方を参考に行っているのでは・・・？

そんなことを考えた・・・。

まあ・・・、

どうでもいいことなのかもしれないが・・・。

北斗の拳を・・・、

リアルタイムで・・・、

少年ジャンプで読んで・・・、

テレビアニメでも観た世代としては・・・、

何となく・・・、

誇らしい気がする・・・。

そう思うのは、私だけであろうか・・・？

いや・・・、

そんなことはあるまい・・・。

姿勢・・・。

姿勢の正しい人は・・・、

健康で・・・、

心も正しく・・・、

エネルギーに満ちているそうだ・・・。

私といえば・・・、

猫背である・・・。

姿勢を正しくしたいものであるなあ・・・。

自殺について思ったこと・・・。

昨年の自殺者数が発表された・・・。

年間2万人以上・・・。

減少したとはいえ、多くの方が自ら生命を絶っておられる・・・。

そして、注目すべきは、子供さんの自殺者数の多さである・・・。

小・中・高生の自殺者数は、500人を上回っている・・・。

過去最高だそうだ・・・。

自殺の原因は様々なようだが、子供さんの自殺者数の多さには、心を痛める・・・。

自分自身、中学時代に死のうとしたことがあった・・・。

原因は、いじめである・・・。

しかしながら・・・、

死ねなかった・・・。

当然のことである・・・。

死ぬのは恐ろしいのだ・・・。

成人してからも、死に行ったことがある・・・。

しかしながら・・・、

やはり・・・、

死ねなかった・・・。

恐ろしいのだ・・・、

死ぬことが・・・。

死を前にすることは、本当に恐ろしいものである・・・。

経験されたことのある人なら、わかるであろう・・・。

死は恐ろしい・・・、

にもかかわらず・・・、

こんなにも多くの方々が、自ら生命を絶っておられるのだ・・・。

現在の日本社会の、異常な一面が、垣間見える気がする・・・。

それは気のせいであろうか・・・？

いや・・・、

そんなことはあるまい・・・。

国会でも、早急な対策を講じていただきたいものである・・・。

国民の生命を救えるのであるならば・・・、

裏金の問題など・・・、

取るに足りない問題である・・・。

たとえ、金にまみれた政治家であったとしても・・・、

国民の生命を救い・・・、

国民を幸せにしてくれる政治家であるならば・・・、

その人は、立派な政治家であると言える・・・。

そう思うのは私だけであろうか・・・？

いやいや・・・、

そんなことはあるまい・・・。

立春を迎えたのに・・・。

今年もとうとう2月になった・・・。

そして・・・、

節分・・・、

立春を迎えた・・・。

無事に、恵方巻きも食べた・・・。

にもかかわらず・・・、

この寒さは・・・、

一体何なんだ・・・。

昼間でも・・・、

体感温度は・・・、

な・・・、

なんと・・・、

マイナス6度・・・、

・・・。

寒い・・・、

寒すぎる・・・。

なんでも、日本上空に、とんでもない寒気が流れ込んでいるらしい・・・。

これも、異常気象なのであろうか・・・？

真夏は・・・、

体感温度50度になるのに・・・。

ああ・・・、

やはり・・・、

自然を大切にしなければなあ・・・。

自分自身が苦しくなるものであるなあ・・・。

至誠にして動かされざるものは、未だこれあらざるなり・・・（孟子）

孟子は述べている・・・。

「至誠にして動かされざるものは、未だこれあらざるなり」・・・、

・・・と・・・。

その意味は、読んで字のごとく・・・、

真心がこもっていれば、どんな人でも動かすことができる・・・。

という意味のようである・・・。

確かにそうなのであろう・・・。

ああ・・・、

私には・・・、

真心も誠も無いなあ・・・。

これからは、自らを省みて・・・、

真心を持って・・・、

誠を持って・・・、

人と交わっていききたいものであるなあ・・・。

身体髪膚、これを父母に受く。敢えて毀傷せざるは、孝の始めなり・・・（孝経）・・・。

「身体髪膚、これを父母に受く。敢えて毀傷せざるは、孝の始めなり・・・。」

昔・・・、

友人が語ってくれていた・・・。

その時は、何となく反感を感じた・・・。

私は、遅れた反抗期を経験していたからである・・・。

しかしながら・・・、

その友人が、論語などの東洋古典を勧めてくれた・・・。

それから、十数年・・・、

分からないながらも、東洋古典を拾い読みしてきた・・・。

そして最近・・・、

孝経を少し読んだ・・・。

すると・・・、

なんと・・・、

昔友人が語ってくれた言葉が、冒頭から登場した・・・。

ああ・・・、

そういうことか・・・、

彼はあの時、孝経の言葉を語っていたのであるなあ・・・、

そんなことを考えた・・・。

孔子の語る孝は・・・、

ただの親孝行のような単純なものではないようであるが・・・、

親孝行しなければ、話にならないのであろう・・・。

しかしながら・・・、

私は、当然のことながら、未熟者であるので・・・、

親孝行どころか・・・、

今だに、親に対してイライラしてしまう・・・。

ああ・・・、

古教の実践は、難しいものであるなあ・・・。

五台山の餅売老女・・・。

昔・・・、

中国五台山では、禪の修行が盛んだったらしい・・・。

そこに、餅売の老女がいたそうだ・・・。

訪れた修行者は、決まって・・・、

「どの道を通ればいいですか？」

と、尋ねたらしい・・・。

すると、その餅売の老女は・・・、

「真っ直ぐにいきなされ。」

と答えたそうである・・・。

現に道はふた手に分かれているのに、である・・・。

その餅売の老女には・・・、

道はひとつしか無かったのである・・・。

少なくとも、正しい道は・・・。

我々も、長い人生の中で、幾度も岐路に立たされることがある・・・。

どの道を選ぶかと、思案投げ首することになる・・・。

しかしながら・・・、

本当は・・・、

五台山の餅売り老女の言うとおり・・・、

「真っ直ぐにいきなされ。」

が答えなのではあるまいか・・・？

色んな道があるように見えるが・・・、

正しい道は・・・、

一本道・・・、

なのではあるまいか・・・？

と・・・、

寒風吹きすさぶ今夜、考えた・・・。

高島易は・・・結構・・・当たる・・・。

最近・・・、

高島易を買ったのであるが・・・、

これが・・・、

思いの外、よく当たる・・・。

恐ろしいくらいだ・・・。

最初は、半信半疑であったのであるが・・・、

よく当たる・・・。

上手く活用すれば・・・、

行動指針となるかもしれない・・・。

まあ・・・、

易に通ずるものは、占わず・・・、

なのではあるが・・・。

俗人である私としては・・・、

有り難いものである・・・。

芥川龍之介・・・侏儒の言葉・・・。

子供の頃から、芥川龍之介が好きである・・・。

特に、「侏儒の言葉」は、愛読している・・・。

ただ・・・、

いかんせん、暗い・・・。

彼の人生や、精神状態を考えれば、致し方ないことなのかもしれないが・・・。

時折読み返すと、何だかホッとするような・・・、

何だか落ち込むような・・・、

不思議な気持ちになる・・・。

これからも、彼の作品は、読み続けるであろう・・・。

特に・・・、

「侏儒の言葉」は・・・。

水晶玉・・・。

水晶玉を買った・・・。

ネットで・・・。

水晶には・・・、

浄化・・・、

リラックス・・・、

運氣向上・・・、

などの効果があるらしい・・・。

しかしながら・・・、

なにせ、ネットで買った安物であるので・・・、

本物の水晶かどうか、疑問を感じないわけではない・・・。

しかしながら・・・、

何だか・・・、

リラックスして・・・、

気持ちがすっきりしたような気がする・・・。

気のせいであろうか・・・？

いや・・・、

そんなことはあるまい・・・。

そういう気分になったことが・・・、

効果の現れであろう・・・。

要は・・・、

気の持ちようである・・・。

お金では買えないものが・・・尊いのです・・・。

お金は大切です・・・。

しかしながら・・・、

お金で買えないもののほうが・・・、

尊いのです・・・。

愛とか・・・、

友情とか・・・、

お金では買えません・・・。

お金で買えないもののほうが・・・、

尊いものなのです・・・。

天地鬼神を畏れ慎むべし・・・。

安岡先生の著書の中で・・・、

天地鬼神を畏れ慎むべし・・・、

ということが書かれてあった・・・。

原典は、中国古典だと思うが・・・。

老荘思想には・・・、

天網恢恢疎にして漏らさず・・・という言葉もある・・・。

あの西郷さんも・・・、

「天を相手に仕事をせよ・・・。」

と、おっしゃっていたそうである・・・。

天は・・・、

我々の言動を見ているのである・・・。

現代人は、他人の目は気にするが・・・、

天が見ているということは、あまり意識しないようである・・・。

謙虚利中・積善・改過に励もう・・・。

香厳上樹・・・。

無門関に・・・、

香厳上樹・・・、

というものがある・・・。

木の枝を、口で咥えただけで、空中にぶら下がっている時に・・・、
崖の下から・・・、

祖師西来の意を問われた場合、どうするか・・・？

というものである・・・。

問に答えたら、口から枝が離れるので、崖下に落下する・・・。

かといって、答えなければ、禅の礼儀に反する・・・。

さあ、どうするのか・・・？

ということである・・・。

典型的な両刀論法である・・・。

現実世界では、こんな出来事はないであろう・・・。

しかしながら・・・である・・・。

実生活でも、両刀論法を突きつけられるが、多々ある・・・。

前に進めば前から斬られる・・・。

後ろに引けば後ろから斬られる・・・。

右へゆけば・・・。

左へゆけば・・・。

と1にかく・・・、

にっちもさっちも行かなくなることが少なくない・・・。

そんな時・・・、

どうすればいいのだろうか・・・？

無門は言ったそうである・・・、

「・・・こういう場面で、きちんとした対応が出来たならば、それまで地獄の道にさまよっていた死人をも、たどころに生き返らせてしまふし、また活きているような顔をしている輩などをいっぺんに殺してしまふであろう。そういう殺活自在の対応も出来ないというのならば、五十六億七千万年のさき、弥勒菩薩がこの世に下って来られるまで待つて、お尋ねするほかはあるまい。」

・・・と・・・。

何とも物騒で、意味不明な言葉である・・・。

禅も・・・、

生きることも・・・、

難しいものであるなあ・・・。

日本の家は・・・。

徒然草には・・・、

日本の家は、夏を過ごしやすくする様に建てるのがいい・・・。

というようなことが書かれてあったと思う・・・。

たしかに日本の夏は暑い・・・。

どうしようもないくらい暑い・・・。

しかしながら・・・、

日本の冬は・・・、

寒すぎる・・・。

平安時代は・・・、

どうやって・・・、

寒さをしのいでいたのだろうか・・・？

それとも・・・、

現代ほど寒くはなかったのだろうか・・・？

謎である・・・。

優しさ・・・。

優しさとは、一体何であろうか・・・？

それは、強さから出たる、他者を思いやる心ではなからうか・・・？

弱さから出たるものは、優しさに似てはいるが・・・、

優しさではなく、ただの弱さである・・・。

私は、時に他者から、優しいとの評価を受けることもあるが・・・、

それは間違いである。

私の場合は、単に弱いだけである。

おまけに、傲慢でもある。

優しさと弱さは、似ている。

しかしながら・・・、

決定的に違う・・・。

それは・・・、

他者を思いやる強さがあるかどうかだと思う・・・。

そう思うのは私だけであろうか・・・？

いや・・・、

そんなことはあるまい・・・。

何も食べない男・・・。

そのむかし・・・、

配置薬の会社に勤めていた・・・。

そこに・・・、

変わった男がいた・・・。

何が変わっているかというところ・・・、

何も食べないのだ・・・。

ひょろりと背が高く・・・、

まあまあイケメンであった・・・。

彼に必要なのは・・・、

栄養ドリンク・・・、

缶コーヒー・・・、

たばこだけだった・・・。

一緒に、営業に行っても・・・、

弁当などは食べなかった・・・。

コンビニアンパンをかじる程度であった・・・。

それから・・・、

二人とも、その職場を去った・・・。

彼は今でも元気なのであろうか・・・？

そして・・・、

いまでも、何も食べていないのであろうか・・・？

時々思い出す・・・、

何も食べない男のことを・・・。

血を吐いた男・・・。

最初の職場で・・・、

コンピュータの部署に配属された・・・。

そこで、直属の上司は、主任だった・・・。

身長180センチ以上・・・、

体重80キロ以上・・・、

おまけに、極真空手をやっていた・・・。

しかしながら・・・、

いかんせん、神経質だった・・・。

ストレスの多い部署であるため・・・、

タバコを吸いまくり・・・、

コーヒーを飲みまくり・・・、

飴玉を舐めまくっていた・・・。

そして・・・、

5時過ぎると、ブラインドをおろして・・・、

酒を飲みながら、残業していた・・・。

なんでも・・・、

昔、胃潰瘍で血を吐いて・・・、

救急車で病院に運ばれたらしかった・・・。

それでも・・・、

「・・・仕事が・・・仕事が・・・。」

と、うわ言のように言っていたらしい・・・。

正しく、仕事の鬼である・・・。

途中で、その主任との関係が悪化して・・・、

私はその職場を去った・・・。

あれから・・・、

随分と長い年月が経過した・・・。

あの主任は、いまでも元気でおられるのであろうか・・・？

時々思い出す・・・、

胃潰瘍で、血を吐いた男のことを・・・。

れいわとねんそう。

著 者 書籍情報の編集ページから、著者情報を入力してください

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
